

# 2022年 3月期 決算説明資料



JPX-NIKKEI 400



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2022 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)



Plastics  
Smart



2016  
攻めのIT経営銘柄  
Competitive IT Strategy Company

平成27年度  
地球温暖化防止活動環境大臣表彰



Minister of the Environment  
対策活動実践・普及部門



株式会社エフピコ  
2022年 5月6日

# 本資料取扱のご注意

掲載する情報につきまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられております。**

# =目次=

◆ <u>実績及び計画</u>	専務取締役経理財務本部本部長	池上 功	.....	4
◆ <u>企業価値拡大へ向けて</u>	代表取締役社長	佐藤 守正	.....	14
◆ 添付資料			.....	67

# 2022年3月期 決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長  
池上 功

# 決算概要 (2022年3月期 実績)

単位: 百万円	通期 実績							通期 10/29修正計画			通期 期初計画		
	2021年3月期		2022年3月期					2022年3月期			2022年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	増減	前年比	数量	計画	構成比	計画比	計画	構成比	計画比
トレー	39,046	20.8	39,244	20.1	+197	100.5%	99.9%	41,223	21.1	95.2%	41,223	21.1	95.2%
弁当・惣菜	104,681	55.8	109,134	55.8	+4,452	104.3%	104.7%	109,088	55.9	100.0%	109,088	55.9	100.0%
小計	143,728	76.7	148,378	75.8	+4,650	103.2%	103.0%	150,311	77.1	98.7%	150,311	77.1	98.7%
その他製品	3,058	1.6	3,391	1.7	+333	110.9%		3,088	1.6	109.8%	3,088	1.6	109.8%
製品売上高	146,786	78.3	151,770	77.6	+4,983	103.4%		153,400	78.7	98.9%	153,400	78.7	98.9%
包装資材	39,043	20.8	41,935	21.4	+2,891	107.4%		39,903	20.5	105.1%	39,903	20.5	105.1%
その他商品	1,679	0.9	1,994	1.0	+314	118.7%		1,696	0.9	117.6%	1,696	0.9	117.6%
商品売上高	40,723	21.7	43,929	22.4	+3,206	107.9%		41,600	21.3	105.6%	41,600	21.3	105.6%
売上高※	187,509	100.0	195,700	100.0	+8,190	104.4%		195,000	100.0	100.4%	195,000	100.0	100.4%
営業利益	18,763	10.0	15,884	8.1	△2,878	84.7%		17,400	8.9	91.3%	19,600	10.1	81.0%
経常利益	19,381	10.3	16,703	8.5	△2,678	86.2%		18,000	9.2	92.8%	20,200	10.4	82.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	12,211	6.5	11,206	5.7	△1,004	91.8%		11,530	5.9	97.2%	12,900	6.6	86.9%

過去最高

償却前経常利益 32,991 30,340 △2,651 92.0% 31,760 95.5% 33,960 89.3%

※2022年3月期より収益認識会計基準を適用しており、一部品目区分を組替し、2021年3月期に遡及適用  
[2021年3月期通期影響額] 売上高△9,441百万円 (商社取引△3,985百万円、販売手数料△5,456百万円)

## ◇販売

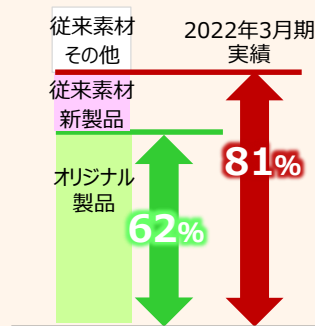
### 製品>

- ・生鮮食品向け汎用容器の反動減  
惣菜向け容器の出荷は堅調
- ・テイクアウト・デリバリー市場の拡大
- ・エコ製品の需要増加

### 商品>

- ・ECサイト「パックマーケット」を活用し  
衛生用品等の販売拡大

## ◇製品売上構成比 推移

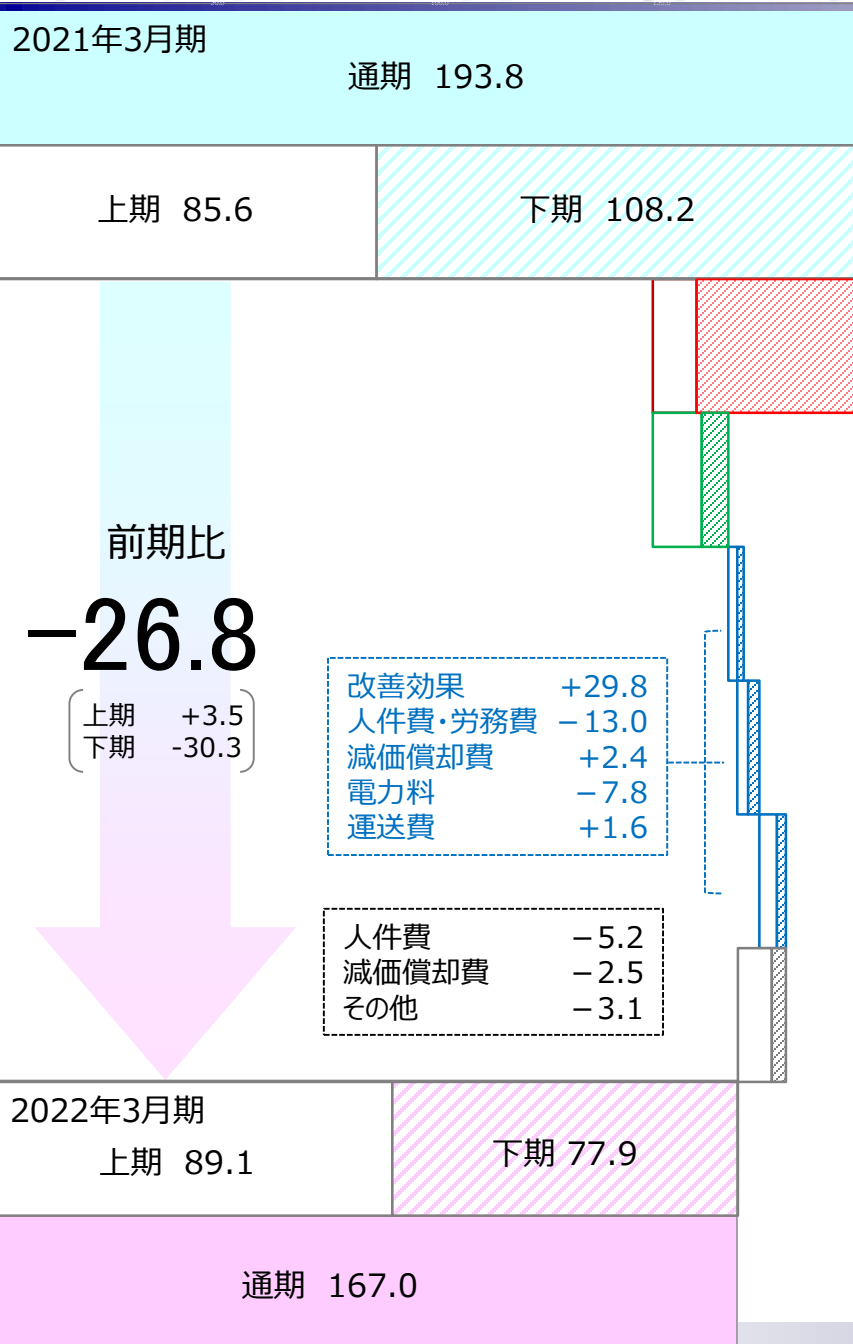


## ◇実績前期比

	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	通期 10/29 修正計画
製品売上高	104.4%	104.9%	100.4%	104.5%	103.4%	104.5%
製品枚数	105.6%	106.0%	99.3%	101.2%	103.0%	105.2%
対前々期	112.8%	111.2%	108.7%	110.0%	110.7%	
経常利益	112.0%	97.5%	78.1%	59.3%	86.2%	92.9%
経常利益率	9.0%	9.3%	10.7%	4.6%	8.5%	9.2%

# 経常利益 利益増減 実績 (2022年3月期)

単位：億円



<b>原料価格</b>	<b>-46.0</b>
(1Q -2.0、2Q -7.9、3Q -18.1、4Q -18.0)	
※製品販売価格改定含む	
<b>販売活動</b>	<b>+17.0</b>
(1Q +6.0、2Q +5.0、3Q +2.2、4Q +3.8)	
<b>生産</b>	<b>+2.0</b>
(1Q +1.5、2Q +2.0、3Q ±0.0、4Q -1.5)	
<b>物流</b>	<b>+5.0</b>
(1Q +1.5、2Q +1.0、3Q +1.0、4Q +1.5)	
<b>グループ会社</b>	<b>+6.0</b>
(1Q +1.0、2Q +3.0、3Q +1.0、4Q +1.0)	
<b>経費</b>	<b>-10.8</b>
(1Q -3.4、2Q -4.2、3Q -2.2、4Q -1.0)	

10/29時点  
見通し対比

-6.0

原料価格上昇  
製品販売価格改定(2021.10 発表)

-2.0

生鮮食品向け汎用製品の反動減  
テイクアウト・デリバリー向け製品の需要増

-5.0

電力料金上昇

計

-13.0

# 設備投資・研究開発費

(2022年3月期 実績)

単位: 百万円	通期 実績				通期 計画	
	2021年3月期 実績	2022年3月期			2022年3月期	
	実績	実績	増減	前年比	計画	計画比
有形固定資産	19,105	23,084	+3,979	120.8%	26,600	86.8%
無形固定資産	306	277	△29	90.3%	500	55.4%
<b>設備投資</b>	<b>19,412</b>	<b>23,361</b>	<b>+3,949</b>	<b>120.3%</b>	<b>27,100</b>	<b>86.2%</b>
<b>減価償却費</b>	<b>13,609</b>	<b>13,636</b>	<b>+26</b>	<b>100.2%</b>	<b>13,760</b>	<b>99.1%</b>
<b>研究開発費</b>	<b>1,195</b>	<b>1,154</b>	<b>△41</b>	<b>96.6%</b>	<b>1,335</b>	<b>86.5%</b>

## 【主な設備投資】

オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上

- ◆ エコAPET原料 生産性向上（関東・中部）
- ◆ エコAPET原料 ベレット化による品質向上（中部）

販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備

- ◆ 自動化設備の導入
- ◆ PSP製品能力増強
- ◆ 従来素材製品能力増強
- ◆ 中部ハブセンター増築
- ◆ 中部第一工場建替え

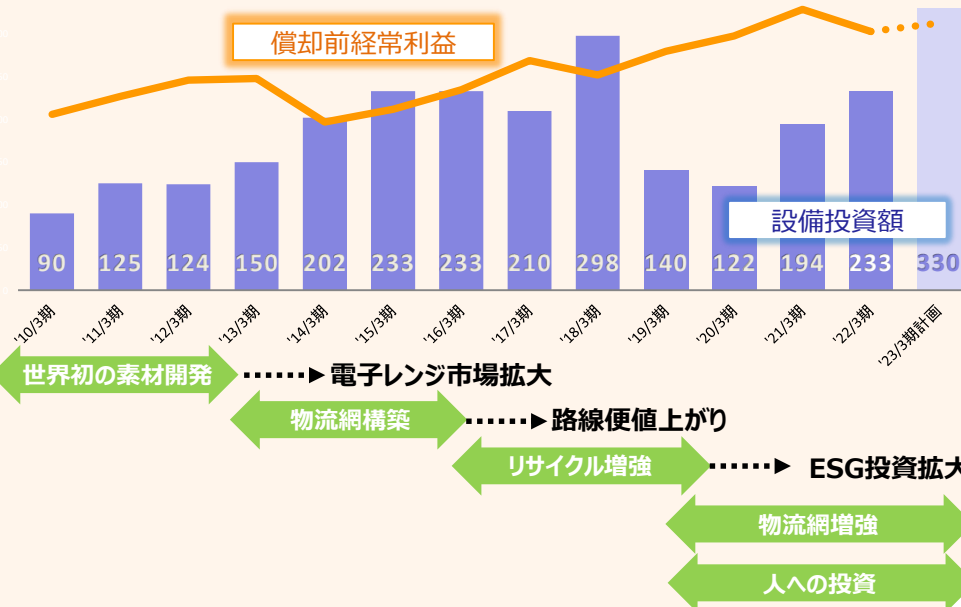
- ◆ 関西工場・関西ハブセンター
- ◆ ピコハウス5号館
- ◆ 金型
- ◆ IT投資

単位: 百万円 投資総額 2022年3月期計画 通期実績

1,135	1,135	660
793	73	67
	224	377
1,222	1,222	1,098
625	625	537
5,855	3,290	3,354
8,049	2,198	2,910
5,820	-	-
25,261	6,718	6,821
2,305	185	315
	1,852	2,028
	635	420

## ◇指標の推移

単位: 億円



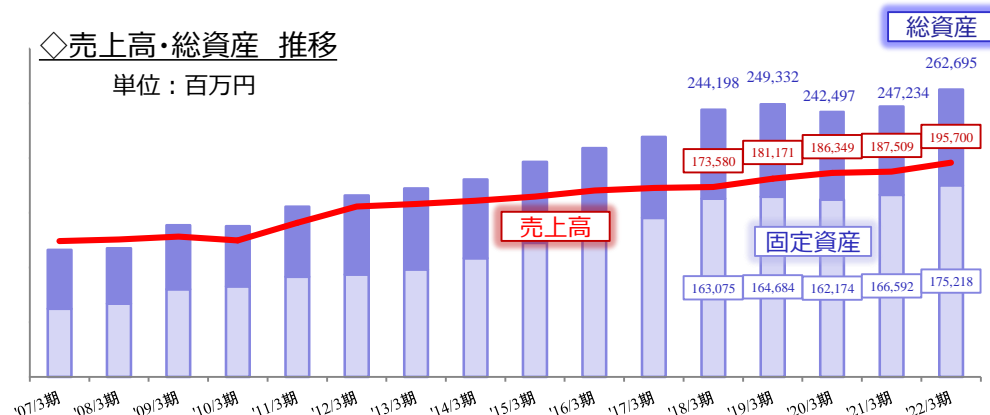
# 貸借対照表

(2022年3月期 実績)

単位:百万円	前連結会計年度		当連結会計年度			
	2021年3月期 2021/3/31	2022/3/31	増減	前年比	2022年3月期 主な増減内訳	
流動資産	80,641	87,477	+6,836	108.5%	現金及び預金	+1,860
					受取手形及び売掛金	+2,154
					商品及び製品	+1,076
					原材料及び貯蔵品	+791
固定資産	166,592	175,218	+8,625	105.2%	建設仮勘定	+7,805
					建物及び構築物(純額)	+2,056
					機械装置及び運搬具(純額)	△420
資産合計	247,234	262,695	+15,461	106.3%		
流動負債	78,527	76,807	△1,720	97.8%	買掛金	+2,696
					短期借入金	△2,192
					未払法人税等	△2,115
固定負債	43,726	53,432	+9,706	122.2%	長期借入金	+9,065
負債合計	122,253	130,239	+7,986	106.5%		
純資産合計	124,980	132,455	+7,475	106.0%	利益剰余金	+7,484
					資本剰余金	+57
負債純資産合計	247,234	262,695	+15,461	106.3%		

自己資本比率 50.2%

- 資産 オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
- 負債 戦略投資の原資として借入金の活用
- 純資産 経営体質の充実強化  
事業拡大に向けた機動的な対応への備え





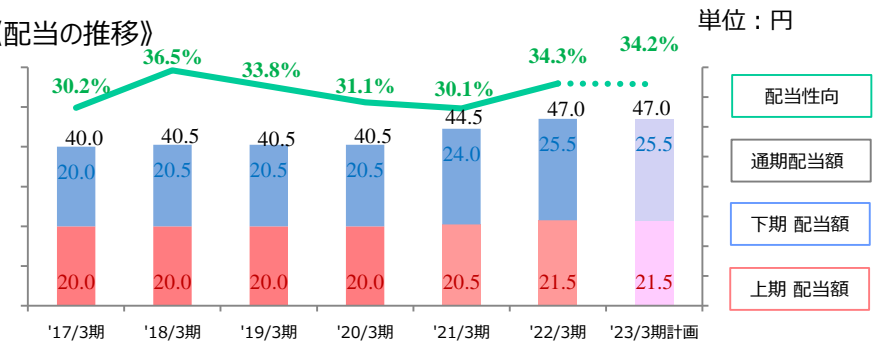
# キャッシュ・フロー

(2022年3月期 実績)

単位:百万円	通期	
	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績 主な内訳
営業活動によるC/F	31,814	23,148 税金等調整前当期利益 16,458 減価償却費 13,636 固定資産圧縮損 2,229 火災損失 63 売上債権の増減額(△は増加) △ 2,144 たな卸資産の増減額(△は増加) △ 1,884
投資活動によるC/F	△ 19,131	△ 22,866 有形固定資産の取得 △ 23,246
フリーキャッシュフロー	12,682	281
財務活動によるC/F	△ 15,086	1,578 長期借入れによる収入 24,000 長期借入金の返済 △ 17,126 リース債務の返済 △ 1,538 配当金の支払額 △ 3,723
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,403	1,860
現金及び現金同等物の期末残高	17,884	19,745

- 営業CF オリジナル製品販売と合理化による利益確保
- 投資CF 収益基盤構築に向けた戦略投資を実施
- 財務CF 継続的に安定した配当の実施

《配当の推移》



※当社は、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。  
2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、配当金額を記載しております。

# 2023年3月期 計 画

# 決算計画概要 (2023年3月期 計画)

単位:百万円	通期 実績		通期 計画				上期 計画			
	2022年3月期		2023年3月期				2023年3月期			
	実績	構成比	計画	構成比	増減	前年比	計画	構成比	増減	前年比
トレー	39,244	20.1	42,820	20.2	+3,575	109.1%	20,660	20.0	+1,100	105.6%
弁当・惣菜	109,134	55.8	120,920	57.0	+11,785	110.8%	58,330	56.4	+4,092	107.5%
小計	148,378	75.8	163,740	77.2	+15,361	110.4%	78,990	76.4	+5,192	107.0%
その他製品	3,391	1.7	3,630	1.7	+238	107.0%	1,810	1.8	+243	115.5%
製品売上高	151,770	77.6	167,370	78.9	+15,599	110.3%	80,800	78.1	+5,435	107.2%
包装資材	41,935	21.4	42,630	20.1	+694	101.7%	21,610	20.9	+614	102.9%
その他商品	1,994	1.0	2,000	0.9	+5	100.3%	1,000	1.0	△8	99.2%
商品売上高	43,929	22.4	44,630	21.1	+700	101.6%	22,610	21.9	+606	102.8%
売上高	195,700	100.0	212,000	100.0	+16,299	108.3%	103,410	100.0	+6,042	106.2%
営業利益	15,884	8.1	16,400	7.7	+515	103.2%	5,050	4.9	△3,498	59.1%
経常利益	16,703	8.5	17,000	8.0	+296	101.8%	5,400	5.2	△3,507	60.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	11,206	5.7	11,230	5.3	+23	100.2%	3,560	3.4	△2,243	61.3%
償却前経常利益	30,340		31,380		+1,039	103.4%	12,420		△3,212	79.5%

## ■ 販売

- 製品**> ・エコ製品の販売拡大  
・宅配、冷凍など新マーケットへの高機能製品提案

出荷枚数 : 前年比103%の伸長  
 トレー容器 : エコ製品を中心に販売拡大  
 弁当・惣菜容器 : 耐寒・耐熱等の機能を備えたオリジナル製品に加え、魅力的な売り場づくりとバックヤードの効率化をサポートする新製品の提案

**商品**> マーチャンダイジング・物流・ITインフラを活用し、小規模小口顧客への販売強化

## ■ 計画前年比

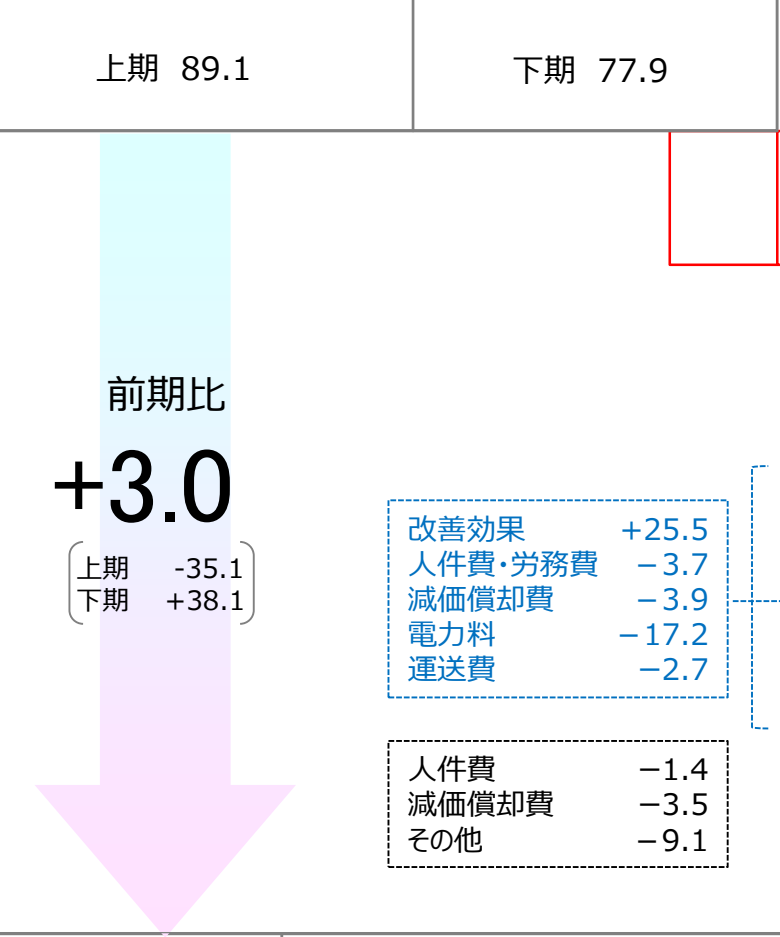
	上期 計画	下期 計画	通期 計画
製品売上高	107.2%	113.3%	110.3%
製品枚数	102.5%	103.5%	103.0%
経常利益	60.6%	148.8%	101.8%
経常利益率	5.2%	10.7%	8.0%

# 経常利益 利益増減 見通し (2023年3月期計画)

期初時点

単位：億円

2022年3月期	
通期 167.0	
上期 89.1	下期 77.9



<b>原料価格</b>	<b>+6.0</b>	原料価格上昇 製品販売価格改定(2021.10 発表・2022.4 発表)
※製品販売価格改定含む (上期 -23.0、下期 +29.0)		
<b>販売活動</b>	<b>+13.0</b>	工コ製品など高付加価値製品の需要増加
(上期 +4.0、下期 +9.0)		
<b>生産</b>	<b>-9.0</b>	電力料金上昇 生産性向上
(上期 -10.0、下期 +1.0)		
<b>物流</b>	<b>±0.0</b>	運送単価上昇 生産性向上
(上期 ±0.0、下期 ±0.0)		
<b>グループ会社</b>	<b>+7.0</b>	グループ問屋等の販売拡大
(上期 +2.0、下期 +5.0)		
<b>経費</b>	<b>-14.0</b>	不動産取得税他
(上期 -8.1、下期 -5.9)		

2023年3月期	
上期見通し 54.0	下期見通し 116.0

通期見通し 170.0	
-------------	--

# 設備投資・研究開発費 計画 (2023年3月期 計画)

単位: 百万円	通期 実績	通期 計画			上期 計画		
	2022年3月期 実績	2023年3月期			2023年3月期		
		計画	増減	前年比	計画	増減	前年比
有形固定資産	23,084	32,800	+9,715	142.1%	24,000	+9,139	161.5%
無形固定資産	277	200	△77	72.2%	90	△92	49.2%
<b>設備投資</b>	<b>23,361</b>	<b>33,000</b>	<b>+9,638</b>	<b>141.3%</b>	<b>24,090</b>	<b>+9,046</b>	<b>160.1%</b>
<b>減価償却費</b>	<b>13,636</b>	<b>14,380</b>	<b>+743</b>	<b>105.5%</b>	<b>7,020</b>	<b>+294</b>	<b>104.4%</b>
<b>研究開発費</b>	<b>1,154</b>	<b>1,397</b>	<b>+242</b>	<b>121.0%</b>	<b>718</b>	<b>+154</b>	<b>127.5%</b>

## 【主な設備投資】

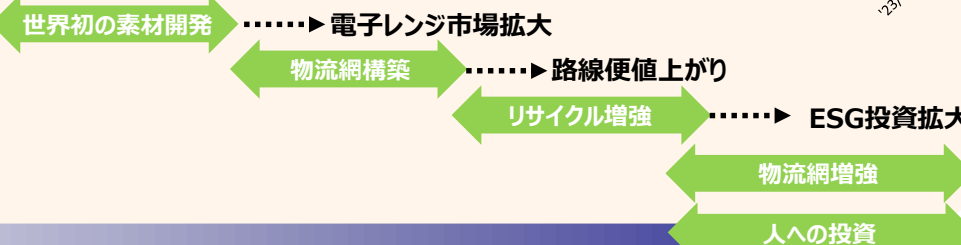
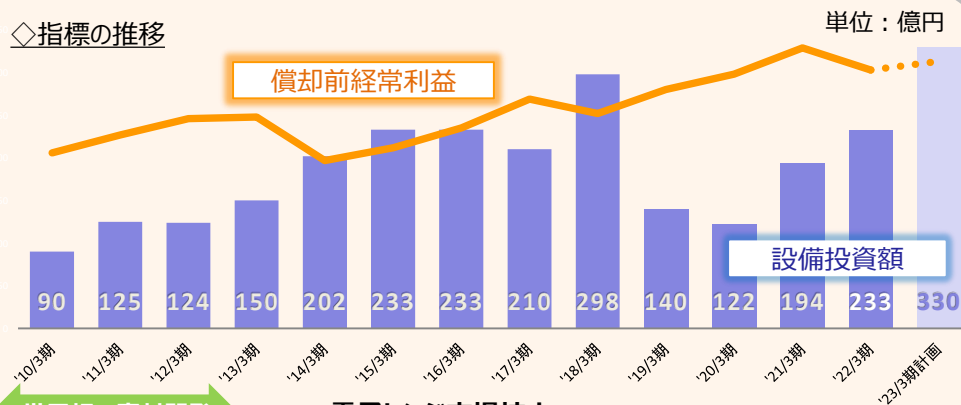
オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上

	2022年3月期	2023年3月期計画
◆ エコAPET原料 生産性向上 (関東・中部)	393	393
◆ エコAPET原料 生産能力増強 (NPR)	754	754

販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備

	2022年3月期	2023年3月期計画
◆ 自動化設備の導入		76
◆ 従来素材製品能力増強	1,149	1,149
◆ 中部第一工場建替え	2022年 5月 完成予定 (圧縮記帳後)	8,049 5,529
◆ 関西工場・関西ハブセンター	2022年 9月 完成予定	25,261 17,238
◆ ピコハウス5号館	2022年 9月 完成予定	2,305 1,548
◆ グループ会社生産拠点の増強 ダンボール工場増床	2024年 1月 完成予定	3,173 341
◆ 金型		1,710
◆ IT投資		568

## ◇指標の推移



# 企業価値拡大へ向けて

---

代表取締役社長

佐藤 守正



株式会社 **エフピコ**

# 目次

---

- **原料動向**
- **マーケットの状況**
- **エコ戦略**
- **安定供給**
- **戦略投資**
- **成長戦略**

# 原料動向





# 原材料価格高騰

2022年4月時点

2020 > 2021 > 2022

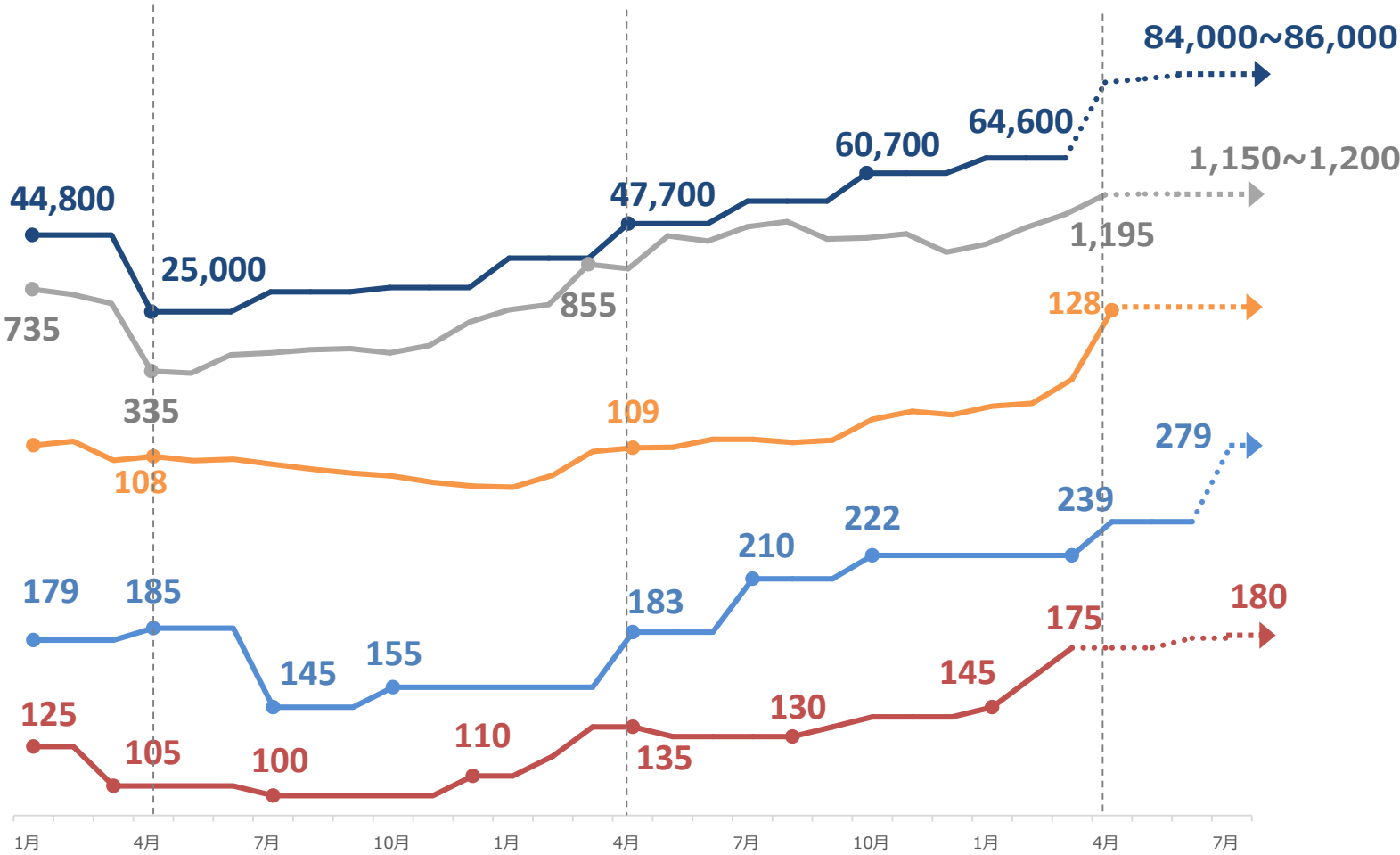
国産ナフサ換算 (円/KL)

ベンゼン (\$/トン)

為替 (¥/\$)

国内一般PS (円/kg)

国内一般PET (円/kg)



電力単価上昇

当社製品 販売価格

価格改定① (2021.10発表) 12/1~10%以上	価格改定② (2022.4発表) 6/1~15%以上
------------------------------------	----------------------------------

# マーケットの状況



# 小売動向

出所：一般社団法人日本スーパーマーケット協会（既存店、売上前年比）

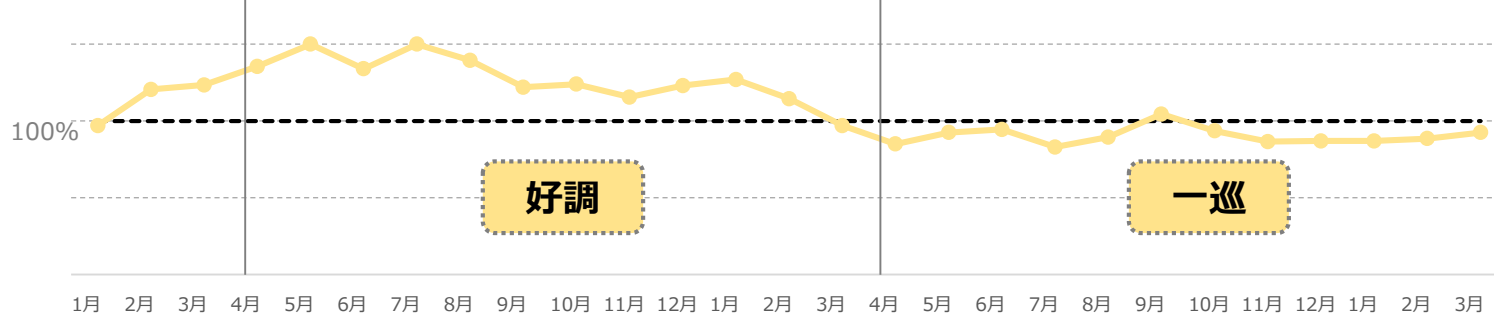
出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）

2020

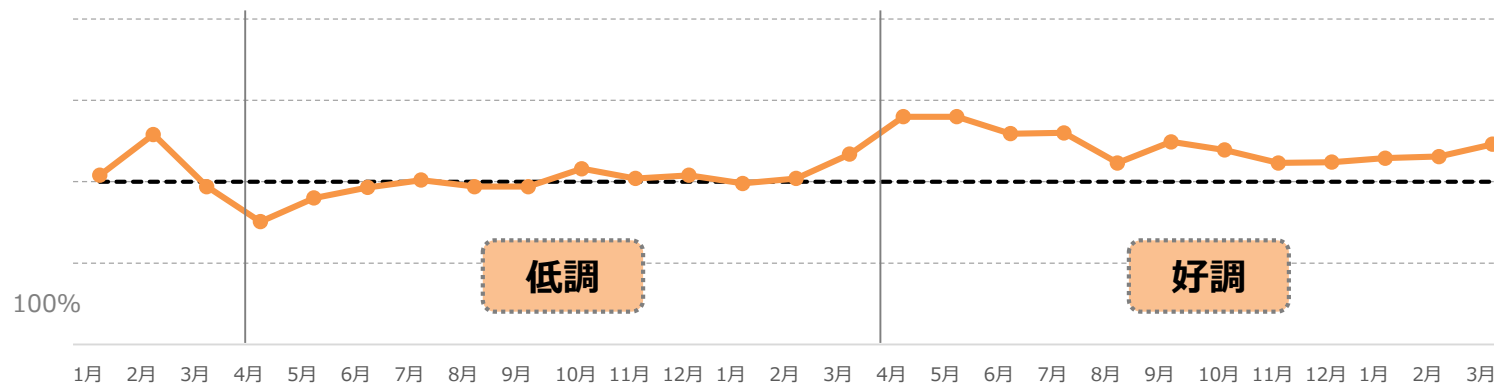
2021

2022

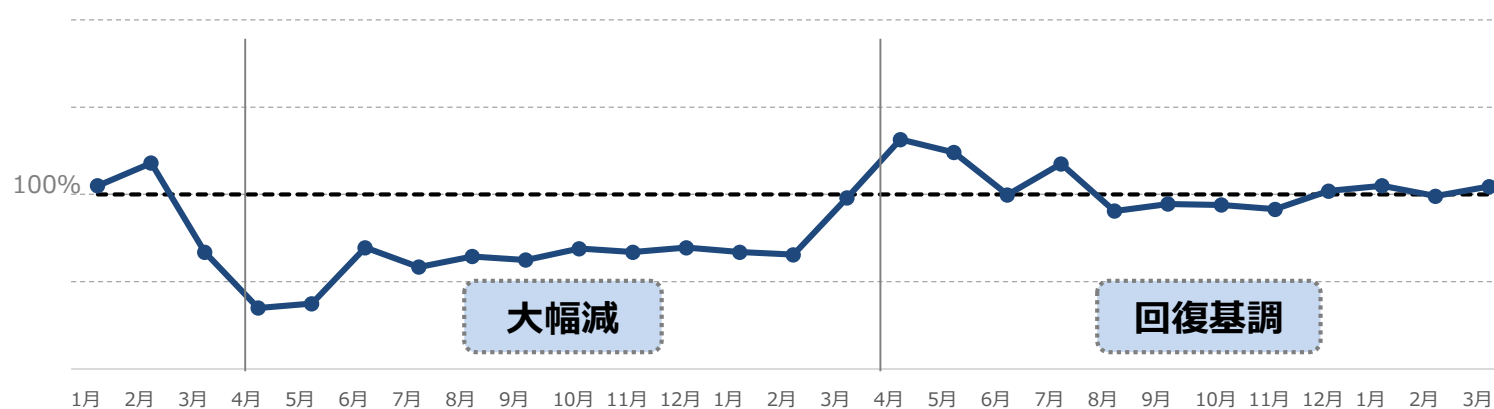
(水産部門)



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

スーパーマーケット

生鮮

惣菜

コンビニエンスストア

日配品

# <外食> テイクアウト・デリバリー市場拡大

出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2021年版惣菜白書」  
富士経済「外食産業マーケティング便覧2021」

## 外食

約26.0兆円 (2019年)

## 中食

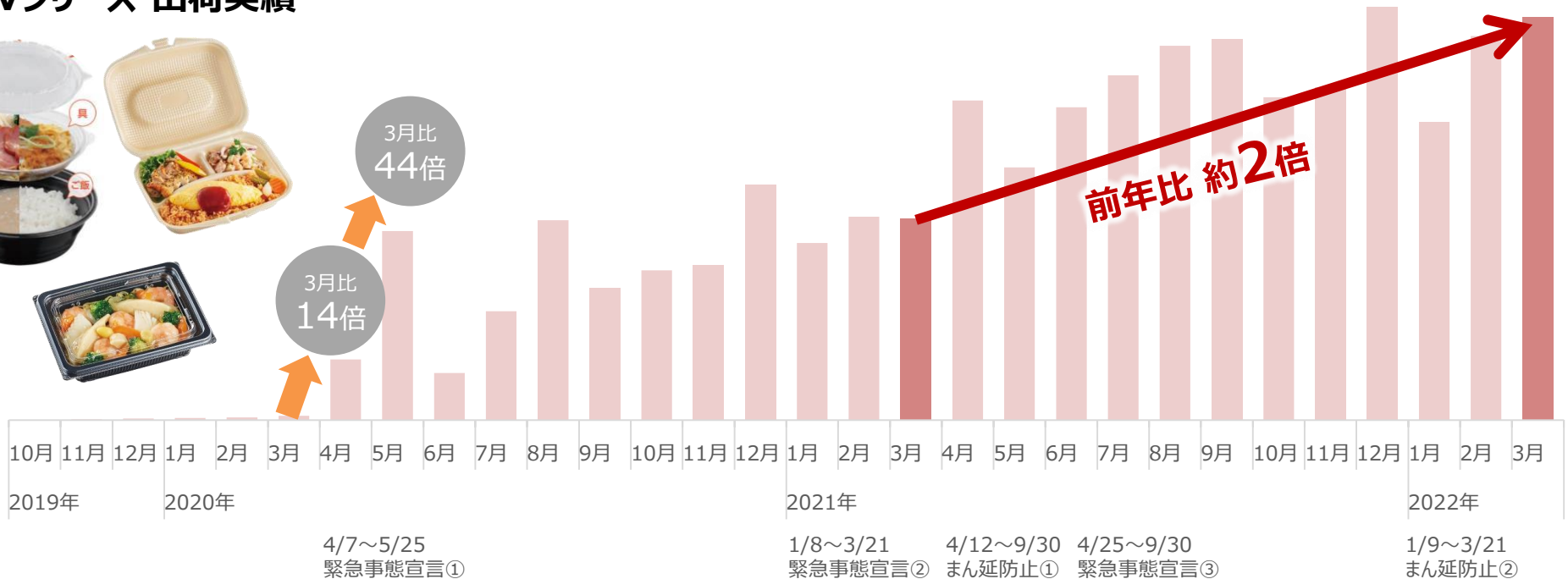
約9.8兆円 (2020年)

## イエナカ外食

(2020年)

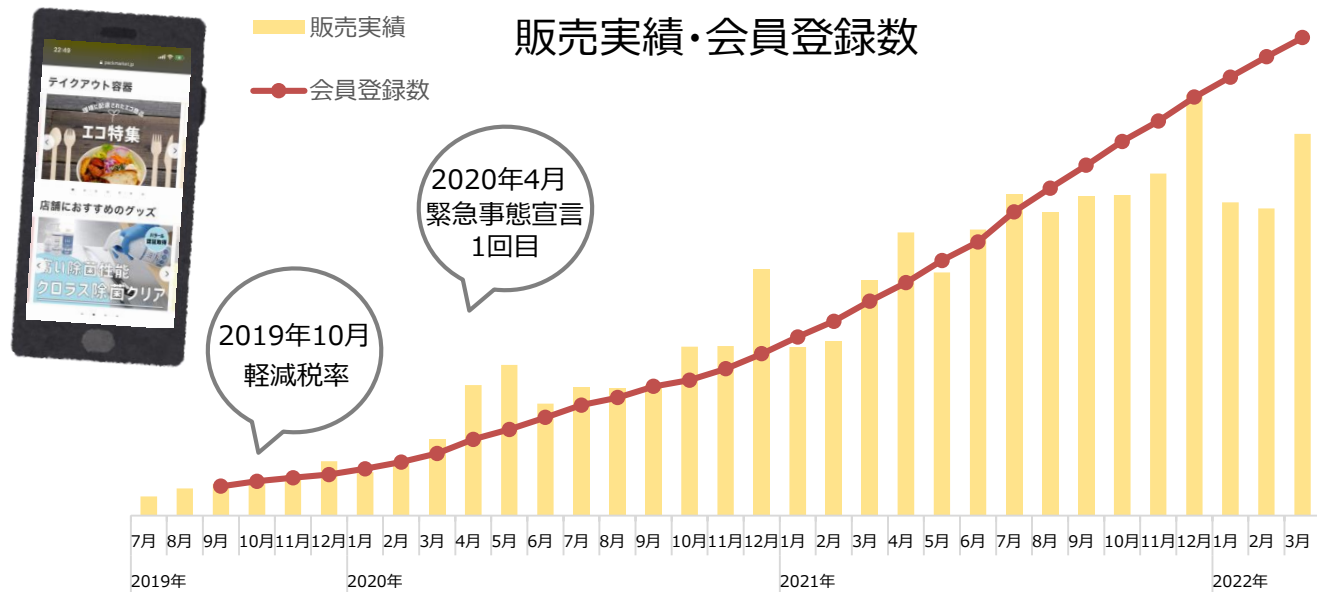
テイクアウト市場規模 約1兆2,500億円  
デリバリー市場規模 約4,600億円

## DLVシリーズ 出荷実績



# < 外食 > 新たなる販路拡大

## 包装資材のECサイト「PackMarket」



月間売上 約 **1** 億円

登録 約 **12,600** アイテム

うち、製品 約 **7,200** アイテム

(2022年3月時点)

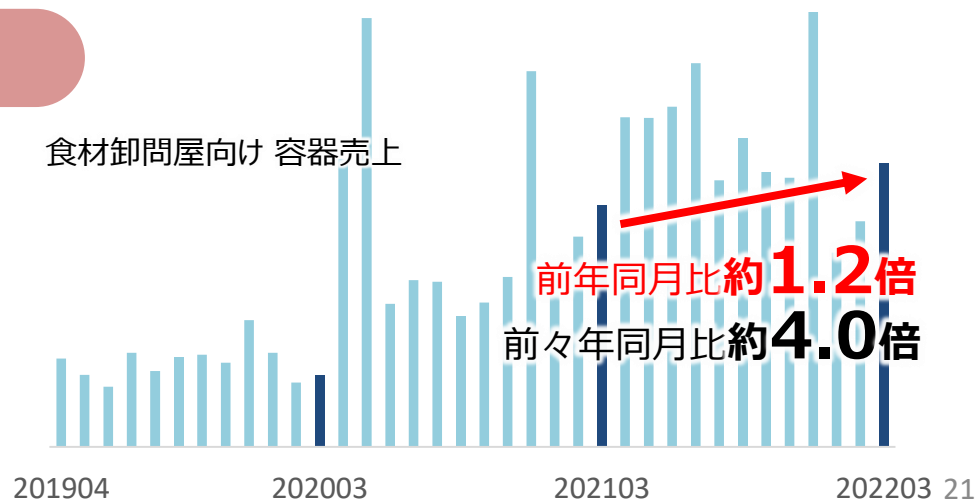
WEBマーケティング  
広告・SEO対策



## 食材卸問屋との協業



食材卸問屋向け 容器売上



# <外食> 新たなる販路拡大

エピコ商事

マーチャндаイジング

商品のMD力  
・調達力



パック  
マーケット PACK MARKET

×

エピコみやこひも

包装資材問屋・ユーザーに対する

販売力



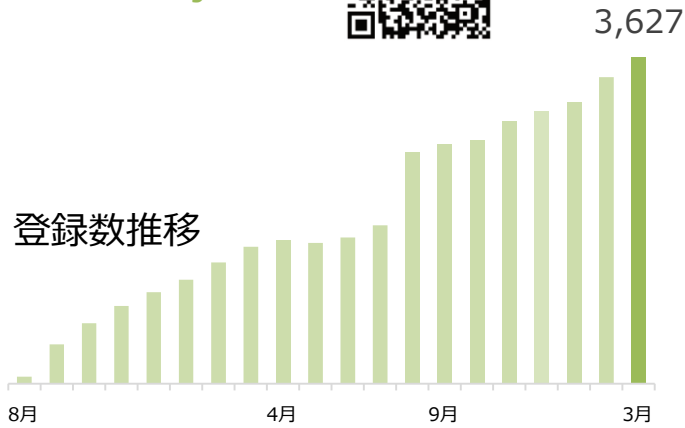
合併期日（効力発生日）  
2022年7月 1日（予定）

- ・資材消耗品の販売力強化
- ・全国の包装資材問屋との連携強化

# 認知度向上への取り組み

LINE

@629njlmr



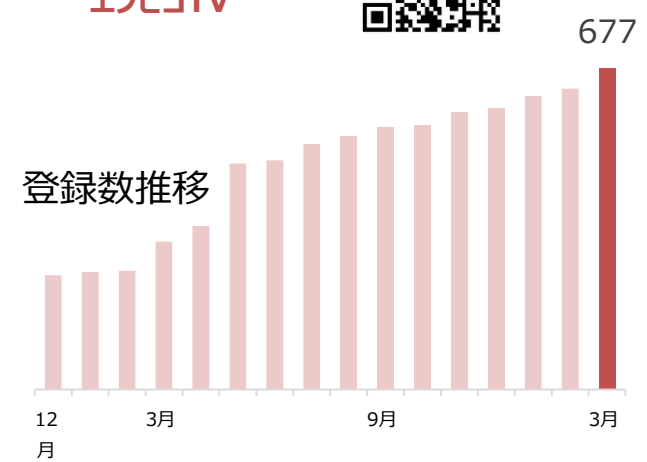
Instagram

fpco.info



YouTube

エフピコTV



## 容器機能検証動画



## 展示会内容の紹介



## キャンペーン



## お店レポート



# 冷凍市場拡大

出展：一般社団法人日本冷凍食品協会  
 業界動向サーチ(<https://gyokai-search.com/3-chilled-food.html>)

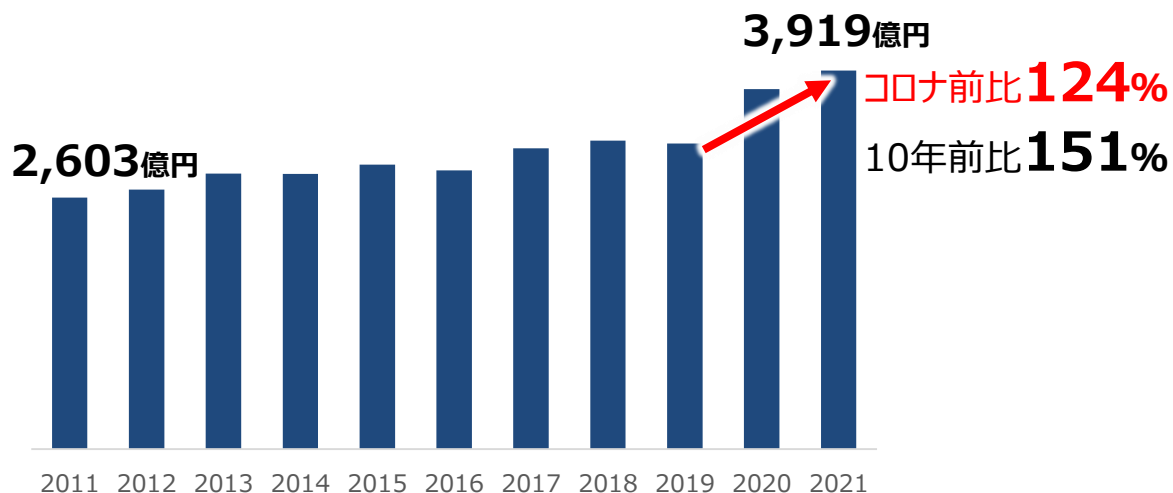
来店頻度の低下

冷凍技術の向上

フードロス対策

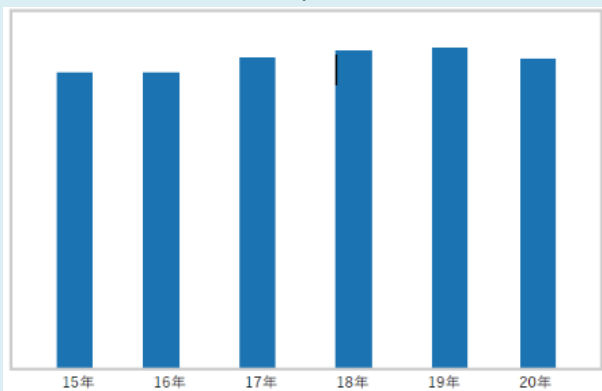


冷凍食品 国内生産金額（家庭用）推移



## 従来

大手メーカーNB商品  
 大手冷凍食品企業11社売上高合計



## 新規参入

スーパー・コンビニ  
 PB商品



冷凍商品専門店



自動販売機





# 冷凍市場 最適な素材の提案

エコPET



耐寒性

冷凍時でも割れにくい

環境配慮

『エコマーク』  
『ペットボトルリサイクル品』を刻印

マルチFP



耐熱性・耐寒性

-40℃～+110℃まで対応

断熱性

加熱直後に手で持っても  
熱くない

耐寒PPi-タルク



強度

耐寒PPと同等

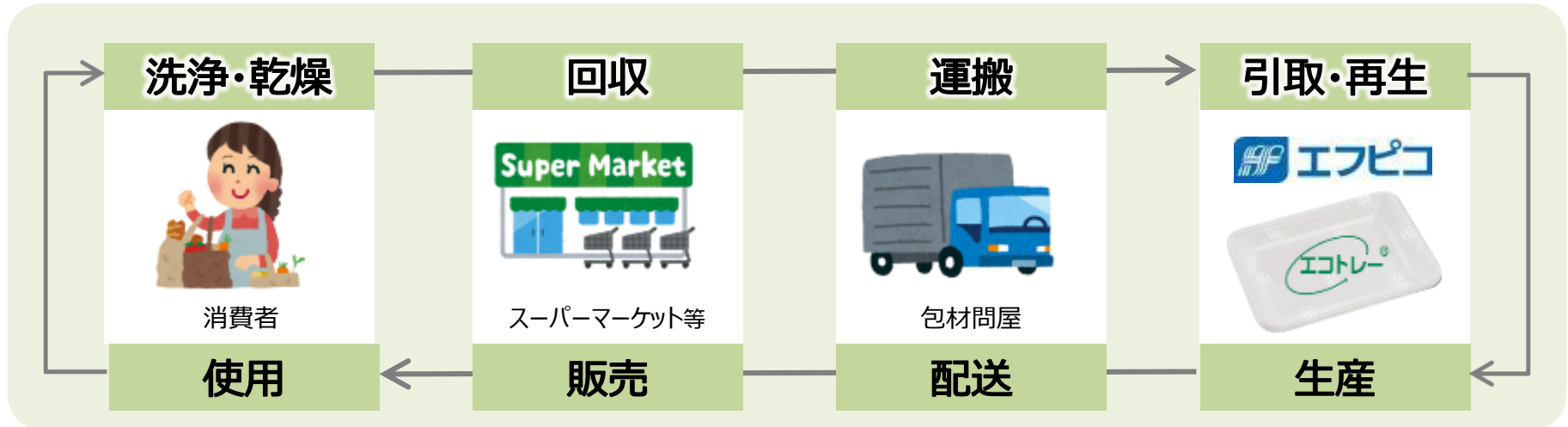
環境配慮

耐寒PPと比較し  
プラスチック使用量削減

# エコ戦略



# エフピコ方式のリサイクル



**歴史**

1980年 広島ゴミ問題

1990年 米国 マクドナルド不買運動

**1990年 エフピコ方式のリサイクル開始**

**1992年 「エコレー」の販売開始**

1995年 容器包装リサイクル法制定

1997年 京都議定書

**2008年 透明容器のリサイクル開始**

**2011年 PETボトルのリサイクル開始**

**2012年 「エコAPET」の販売開始**

2015年 パリ協定

2021年 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律制定

容器包装から紙包装へ変更

導入当初 **6店舗** 回収拠点

福山市・大阪市からスタート

約**30年**

2022年3月末時点

約**10,000**拠点



# エコ製品の消費者への訴求①



## F社様

広島県を中心に  
全59店舗を展開

### 売り場



### 回収BOX



**トレーの回収に  
ご協力をお願いします。**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**  
私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** CO2排出 **30%** 低減

地球温暖化防止のために  
**リサイクルトレー**  
※積極的に利用しております。

お客様と共に環境保全/リサイクル活動

**SDGs** 『きれいに  
洗って下さいね』  
大変助かります。  
ありがとうございます。

## R社様

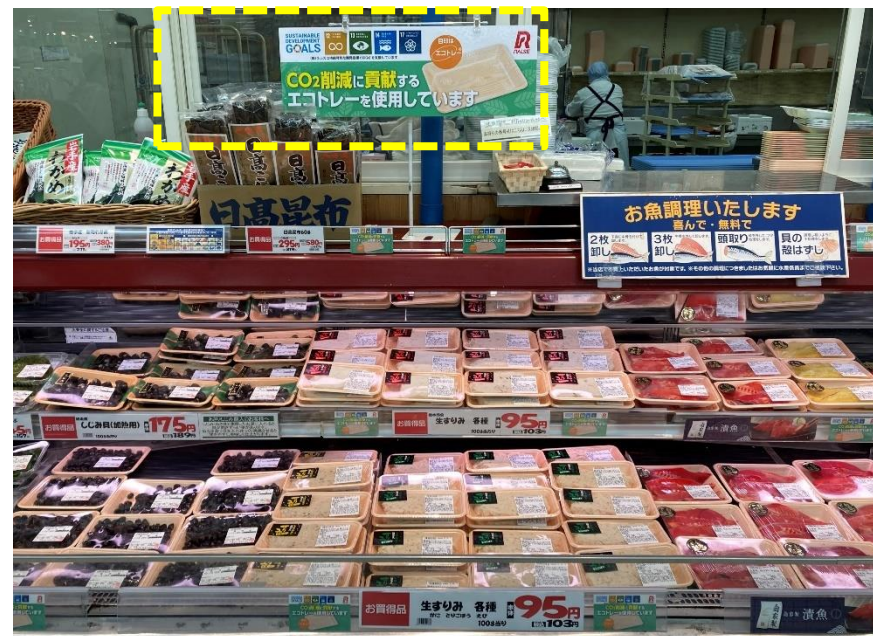
北海道中心に  
全74店舗展開

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** **CO2削減に貢献する  
エコトレイを使用しています**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** **CO2削減に貢献する  
エコトレイを使用しています**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** **CO2削減に貢献する  
エコトレイを使用しています**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS** **CO2削減に貢献する  
エコトレイを使用しています**



# エコ製品の消費者への訴求①



2022年4月15日時点

設置企業数

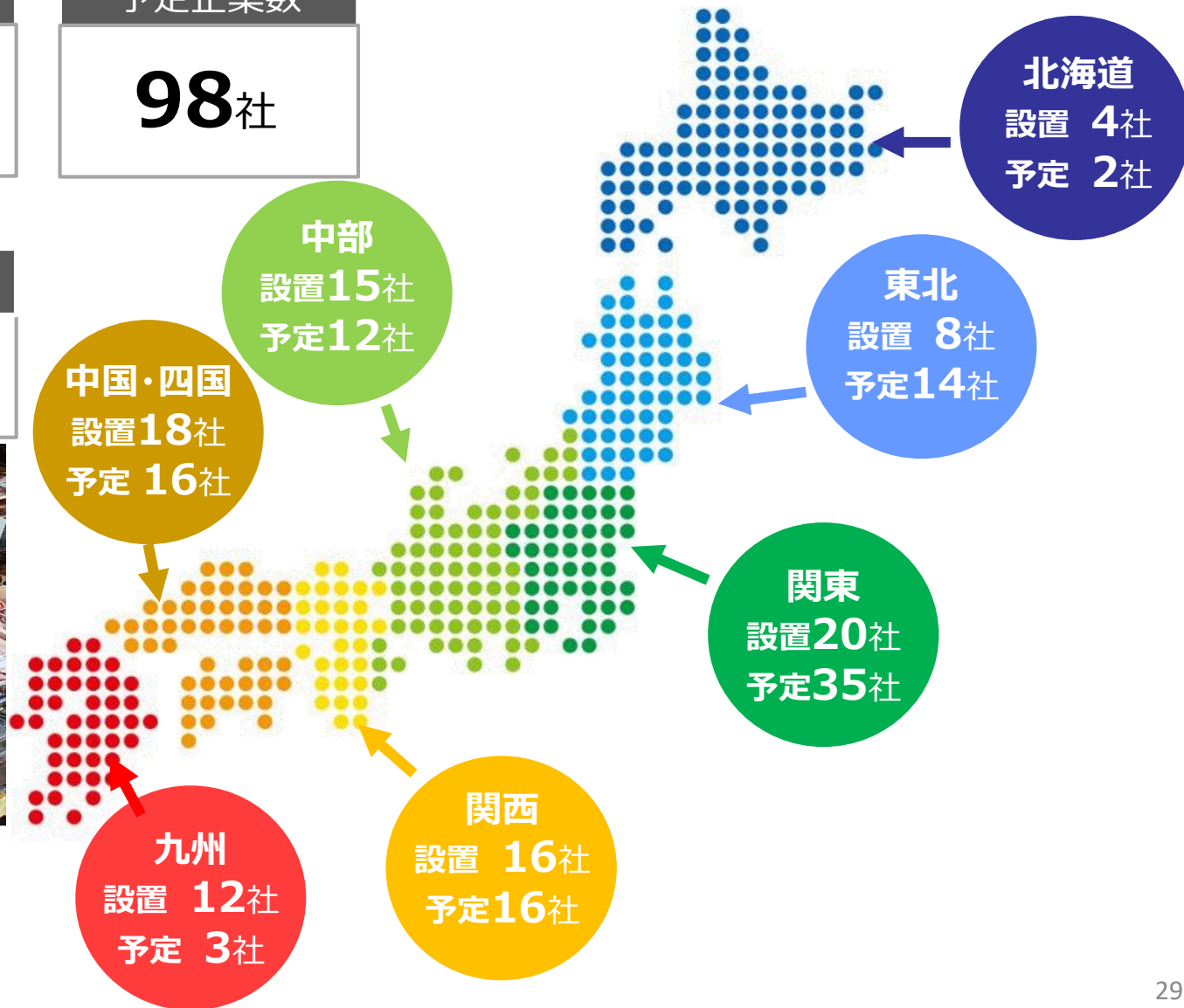
93社 1,856店舗

予定企業数

98社

目標

300社 7,000店舗

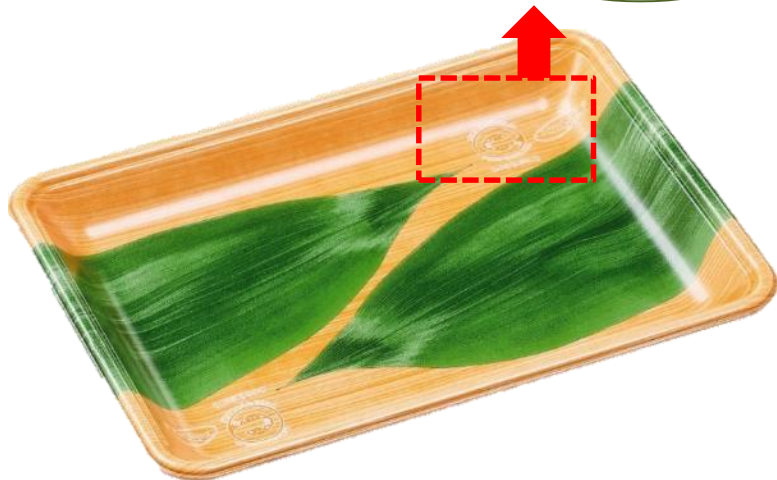


# エコ製品の消費者への訴求②



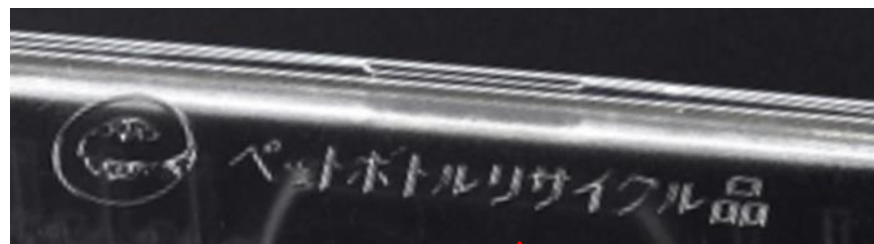
環境に配慮した製品であることをわかりやすくするため  
エコ製品に「**エコマーク**」「**ペットボトルリサイクル品**」を表示刻印。

## エコトレー



エコトレー全製品に表示済み

## エコAPET・エコOPET



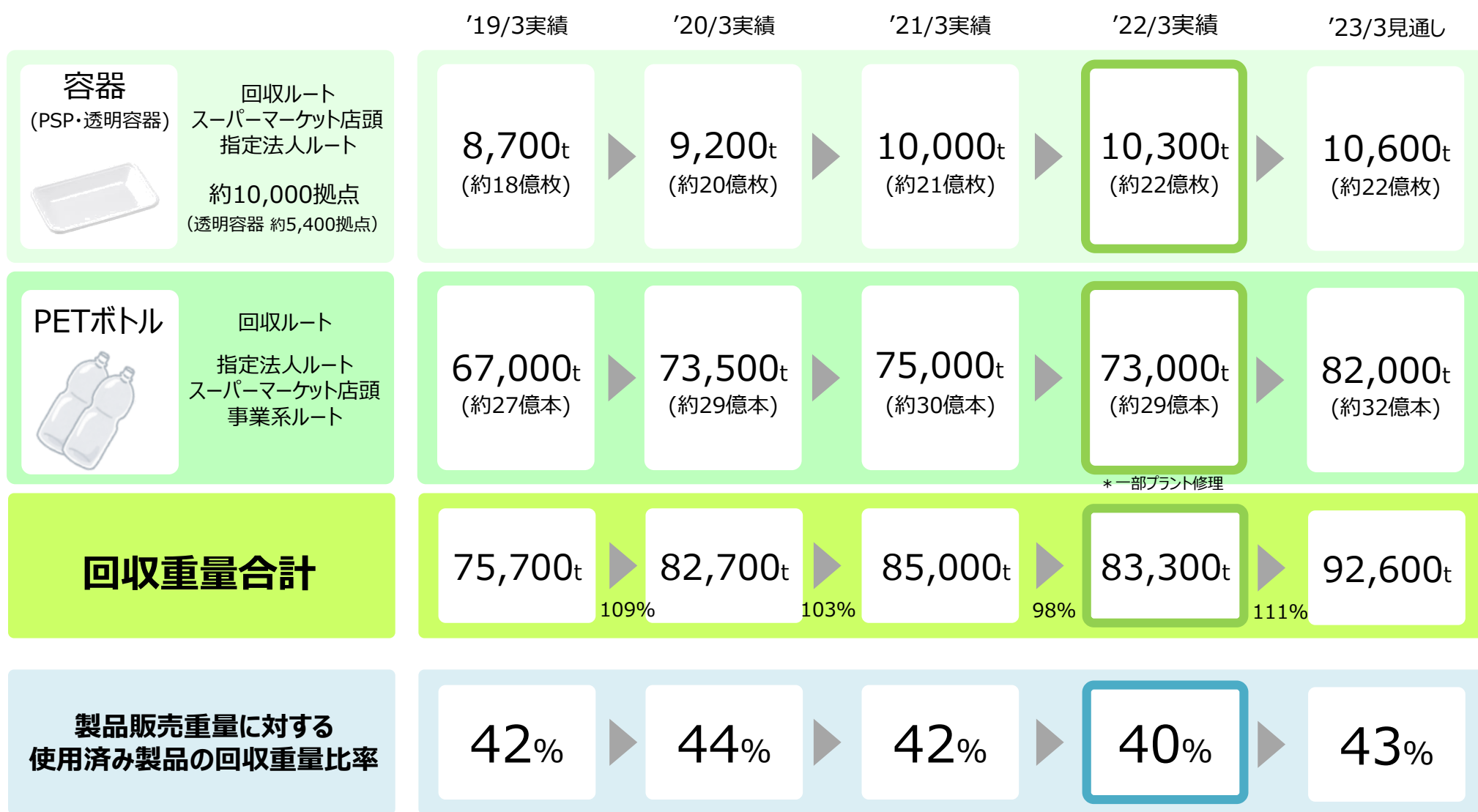
売れ筋製品より順次刻印追加

# プラスチック資源の回収



※枚数・本数換算は、標準的なグラム数にて算出  
 発泡トレイ：約4g、透明容器：約10g、PETボトル：約25g

## 回収重量



# 気候変動対応 エコ製品によるCO2排出量削減



CO2排出量

# -30%



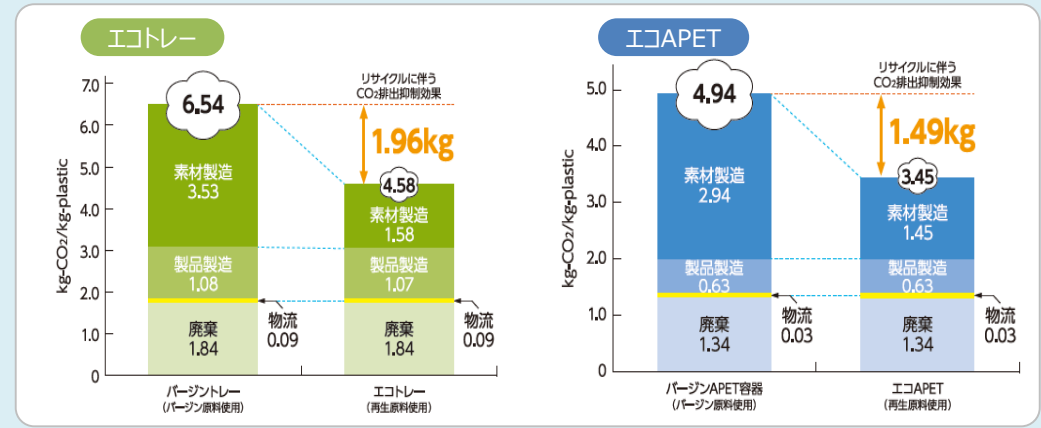
エコトレー

エコAPET

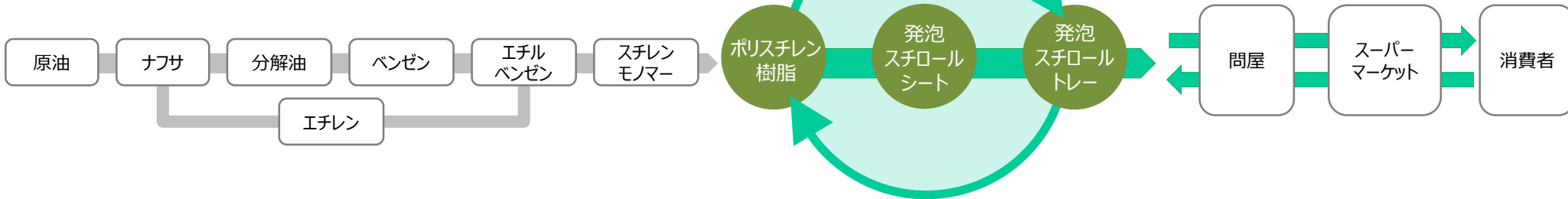
2022年3月期 CO2排出量

年間17万t 削減

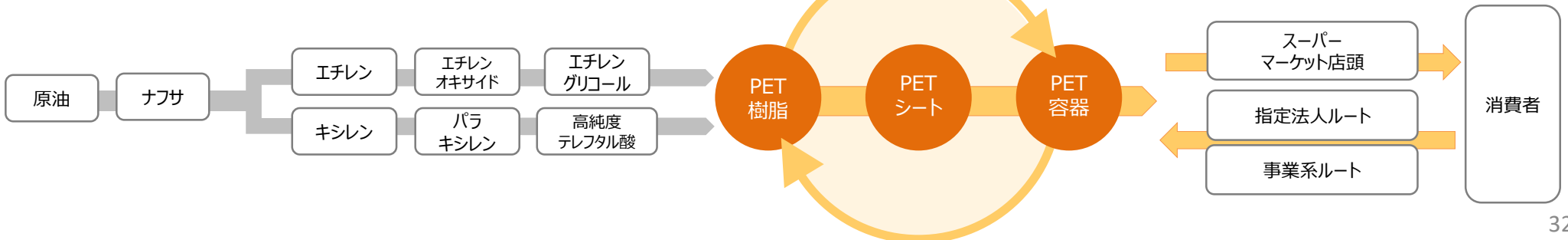
(エコトレー 4.1万t/エコAPET 8.9万t/エコOPET 4.1万t)



## トレーtoトレー



## ボトルtoトレー





# CO<sub>2</sub>削減ポスター



## 全国掲示事例

(2022年3月末時点)

# 約6,040店舗

### イオングループ様 ポスター掲示例

2016年2月期

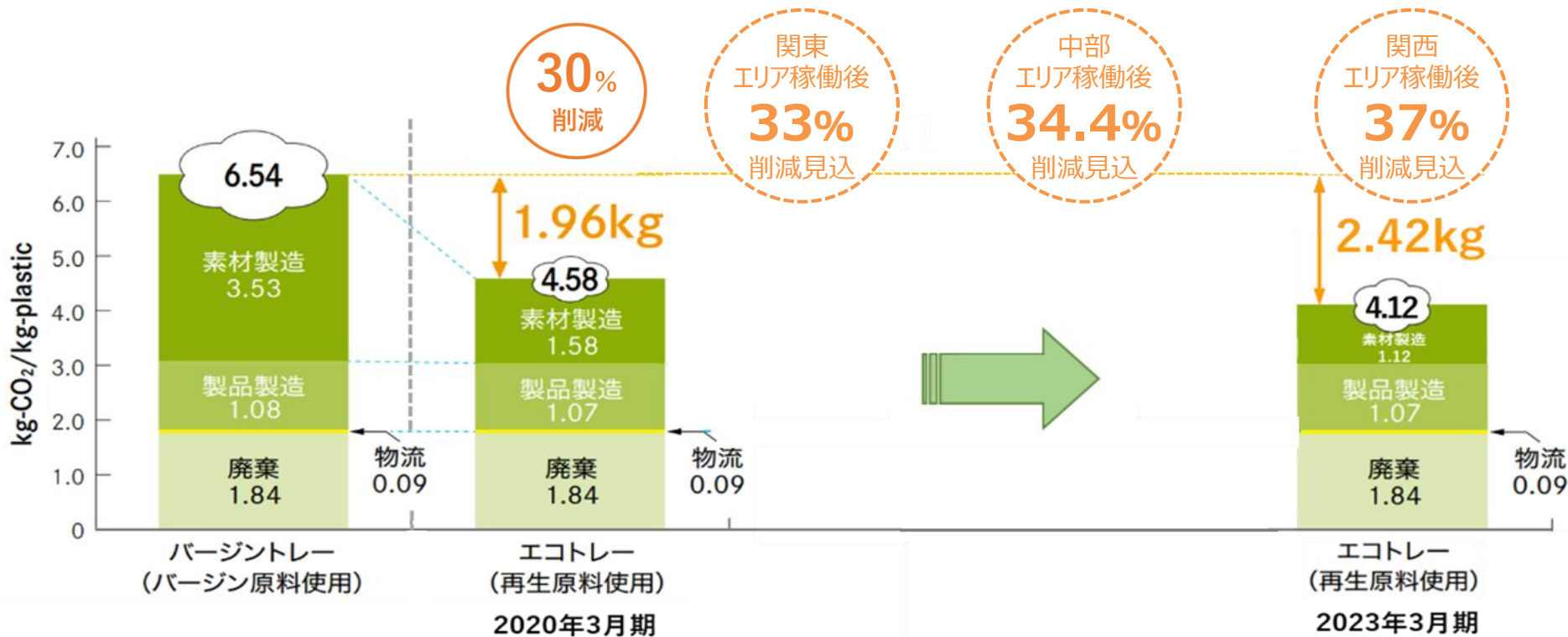


5年間で  
CO<sub>2</sub>削減  
+約**6,250t**

2021年2月期



# 太陽光発電の協業 三井物産プラントシステム様とPPA締結



再生原料製造工程の CO2 排出量ゼロを目指す

# リサイクルでカーボンオフセット宣言



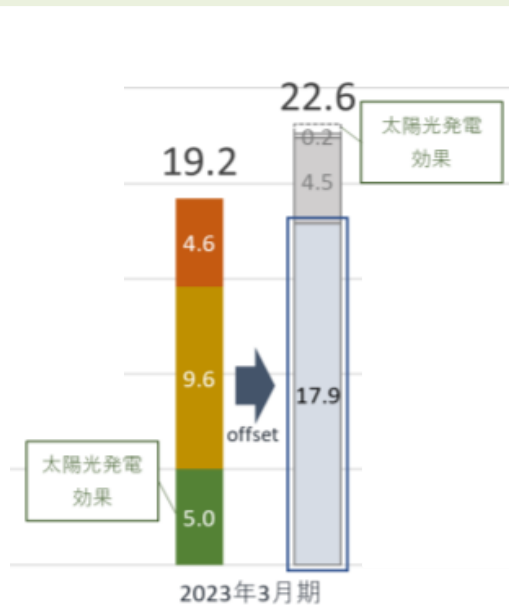
2020年3月期

エコ製品販売による  
CO2削減効果 **16.0**万トン < 生産部門  
CO2排出量 **16.8**万トン



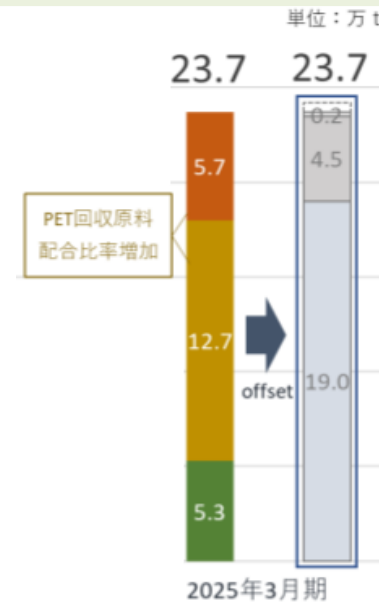
2023年3月期

エコ製品販売による  
CO2削減効果 **19.2**万トン ↔ バランス 生産部門  
CO2排出量 **17.9**万トン



2025年3月期

エコ製品販売による  
CO2削減効果 **23.7**万トン ↔ バランス 生産・物流・オフィス  
CO2排出量 **23.7**万トン



目標達成に向けての  
取り組み

使用済みトレイ、PETボトルの回収量増大  
エコAPET、エコPET製品の  
回収原料比率向上

再生可能エネルギーを積極導入  
ケミカルリサイクル導入検討

下記URLより動画「リサイクルでカーボンオフセット宣言」をご覧ください。

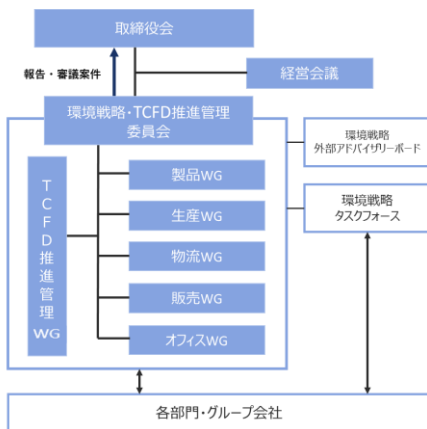
<https://www.fpc.co.jp/blog/2021/03/31/401>

# TCFD 提言への賛同表明

## ガバナンス

気候関連のリスク及び機会について  
取締役会による監視体制

(体制図)



## 戦略

ビジネスへの影響及びシナリオに基づく  
戦略のレジリエンス

- シナリオ分析の実施 (2°Cシナリオ・4°Cシナリオ)
- 財務影響額を試算

インパクト 評価項目	リスク	対応 行わない場合の 財務影響	気候シナリオへの対応
【2030年以降】 気候変動による 事業活動の停滞	気候変動によるコスト上昇	▼	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業活動に与える気候変動リスクの把握                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動によるサプライチェーンの断絶</li> <li>・高気圧や豪雨による工場設備の被害</li> </ul> </li> <li>■ 事業活動に与える気候変動リスクの把握                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動によるサプライチェーンの断絶</li> <li>・高気圧や豪雨による工場設備の被害</li> </ul> </li> </ul>
【2030年以降】 気候変動による 事業活動の停滞	気候変動によるコスト上昇	▼	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業活動に与える気候変動リスクの把握                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動によるサプライチェーンの断絶</li> <li>・高気圧や豪雨による工場設備の被害</li> </ul> </li> <li>■ 事業活動に与える気候変動リスクの把握                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動によるサプライチェーンの断絶</li> <li>・高気圧や豪雨による工場設備の被害</li> </ul> </li> </ul>
【2030年以降】 気候変動による 事業活動の停滞	気候変動によるコスト上昇	▼	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業活動に与える気候変動リスクの把握                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動によるサプライチェーンの断絶</li> <li>・高気圧や豪雨による工場設備の被害</li> </ul> </li> <li>■ 事業活動に与える気候変動リスクの把握                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動によるサプライチェーンの断絶</li> <li>・高気圧や豪雨による工場設備の被害</li> </ul> </li> </ul>

## リスク管理

リスクの識別および評価プロセス

- マテリアリティの特定/全社的リスク管理との統合

	目指す姿	マテリアリティ (重要課題)	取り組み	関連するSDGs
食品トレーメーカーとして	持続可能な 社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO2排出削減</li> <li>● プラスチックごみ問題の解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電設備の導入</li> <li>・再生原料を使用したエコ製品の拡大</li> <li>・リサイクルボックスによる使用済み製品の回収</li> <li>・環境基金を通じた活動</li> </ul>	
	安全・安心で 豊かな食生活の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな価値を提供する製品開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値創出策案</li> <li>・新素材の研究開発</li> <li>・製品のプラスチック使用量削減</li> <li>・食品ロスの削減</li> </ul>	
	「必要な時に確実に お届けする」 インフラの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製菓品の安定供給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンマネジメント (SCM)</li> <li>・食糧危機の発生・物流ネットワーク構築</li> <li>・災害対策 (非常用自家発電設備と燃料備蓄、防災設備設置)</li> </ul>	
社会の一員として	経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員の寄与向上</li> <li>● 本業・本業以外の連携</li> <li>● コーポレートガバナンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティワーク (健康・安全で働きがいのある仕事) の推進</li> <li>・協賛・協業などダイバーシティ経営</li> <li>・人材マネジメント (人事制度、各種研修プログラムの充実)</li> <li>・業務全般におけるDX推進</li> </ul>	
	地域社会との共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティへの参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル工場見学や出前授業の実施</li> <li>・環境基金を通じた地域社会と一体で進める環境活動</li> <li>・子ども食堂への献金活動</li> </ul>	

## 指標と目標

リスクと機会の評価に用いる指標

- 事業活動全体におけるCO2排出量 (Scope1・2) を 2031年3月期までに2020年3月期比31%削減します。
- エコ製品 (エコトレ、エコAPET、エコOPET) による CO2排出削減量を2031年3月期までに27.2万tに増やします。(2020年3月期比170%増)
- 事業活動全体におけるCO2排出量 (Scope1・2) の実質ゼロを 2050年度までに目指します。

下記URLよりご覧ください。

<https://www.fpcj.jp/esg/environmenteffort/tcf.html>

# 法規制動向 プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

(2021年6月公布、2022年4月施行)

## ①設計・製造段階



プラ製品の設計を環境配慮型に転換

プラ製品の環境配慮設計に関する指針に即した  
環境配慮製品を国が初めて認定し、  
消費者が選択できる社会へ

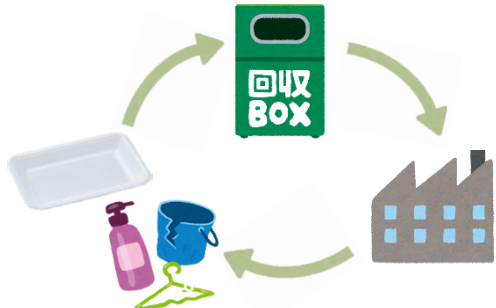
## ②販売・提供段階



使い捨てプラをリデュース

小売・サービス事業者などによる  
使い捨てプラの使用を合理化し、  
消費者のライフスタイル変革を加速

## ③排出・回収・リサイクル段階



排出されるプラを回収・リサイクル

あらゆるプラの効率的な回収・リサイクルを促進

使用済プラスチックについて、製造事業者などの計画を国が認定することで廃棄物処理法上の許可を不要とする特例を設けます。

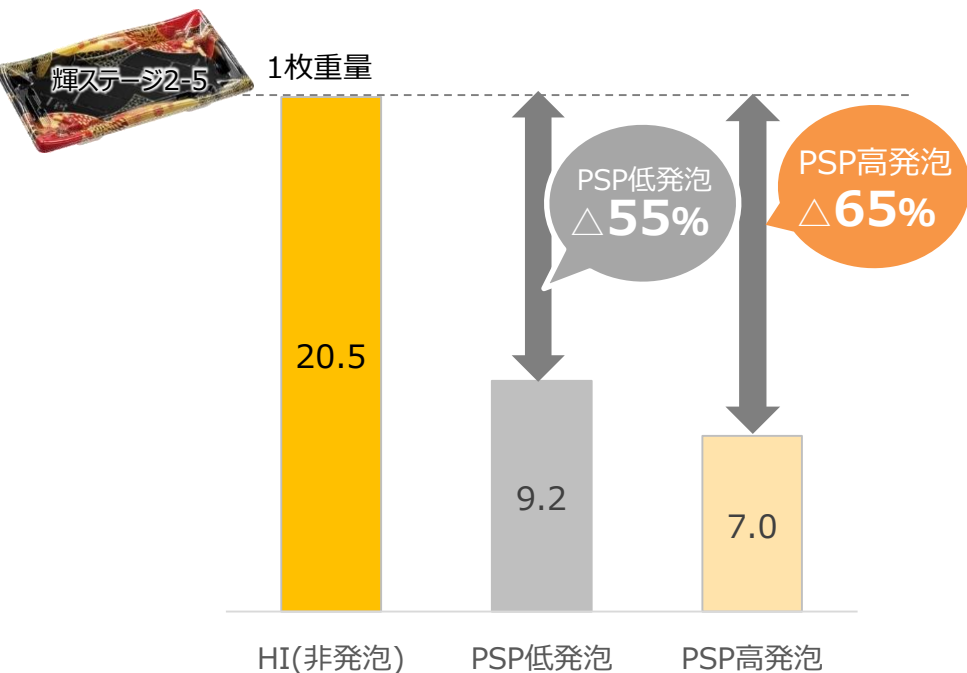
# プラスチック使用量削減

## 小売各社 プラスチック削減目標

- 小売A社 2030年までに**プラスチック使用量を半減**、全てのPB商品に環境配慮素材
- 小売B社 2030年までに**プラスチック重量25%削減**、リサイクル可能素材へ移行
- 小売C社 2030年までに**プラスチック使用量を30%削減**、PB商品環境配慮素材50%

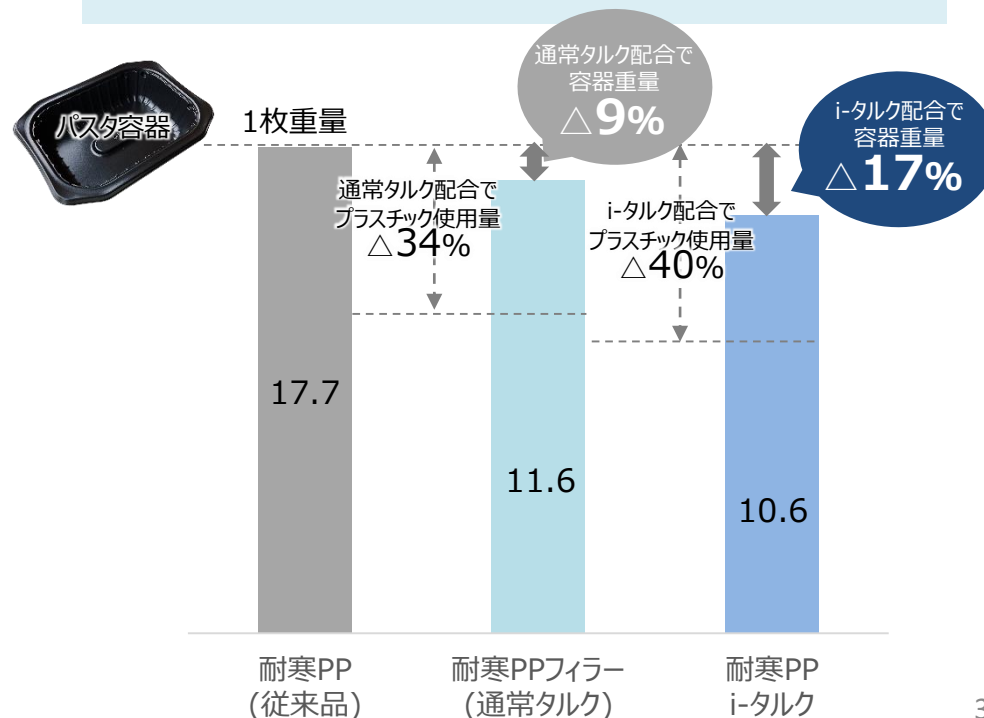
### ①HI・PSP 発泡素材の活用

発泡素材を活用することで、プラスチック使用量を削減



### ②耐寒PP 新素材の研究開発

容器の強度は維持したまま、プラスチック使用量を削減



# 素材の多様化 及び リサイクル技術の研究

## 新素材

バイオマスプラスチック  
(植物由来)



紙・パルプモールド

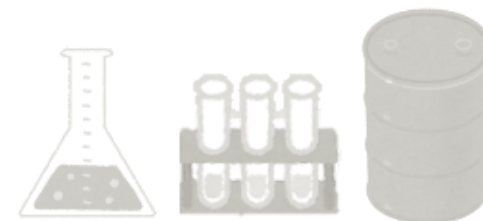


## リサイクル技術

マテリアル  
リサイクル



ケミカル  
リサイクル

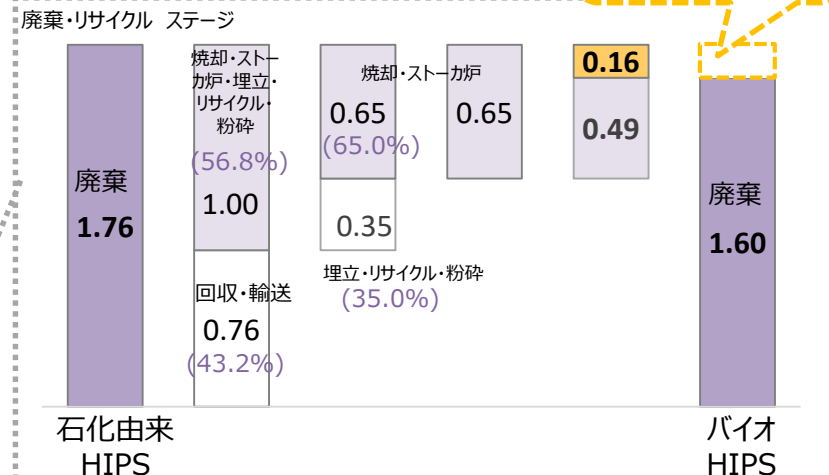
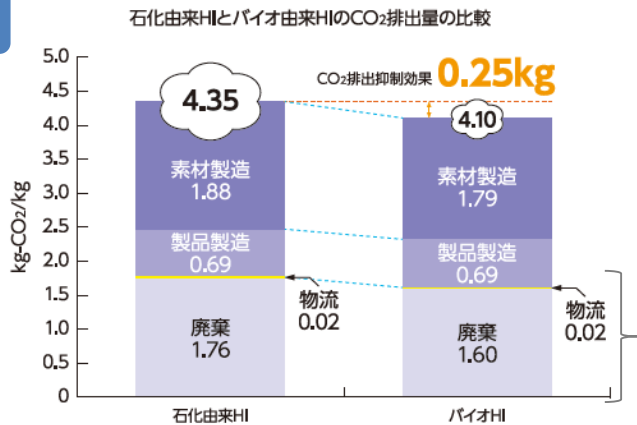


# バイオマスプラスチック製品 CO<sub>2</sub>削減

- ✓ バイオHIPS・バイオPPF 2020年6月上市
- ✓ 植物由来原料 25%使用 / 日本バイオプラスチック協会 認定登録

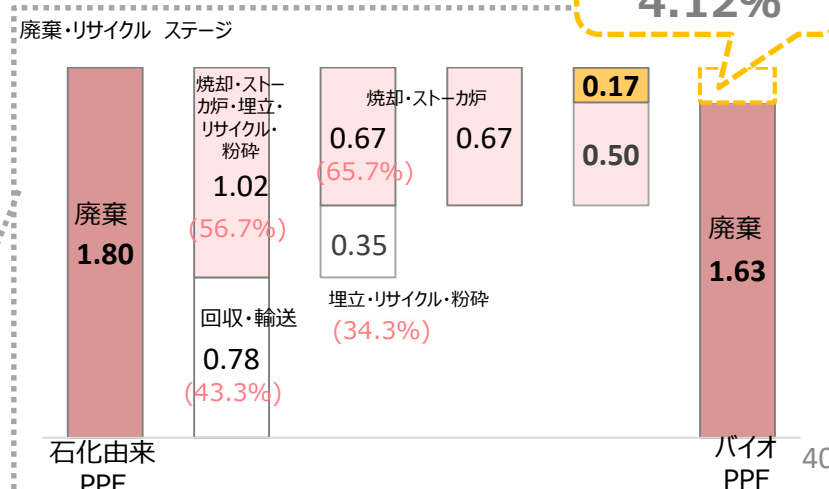
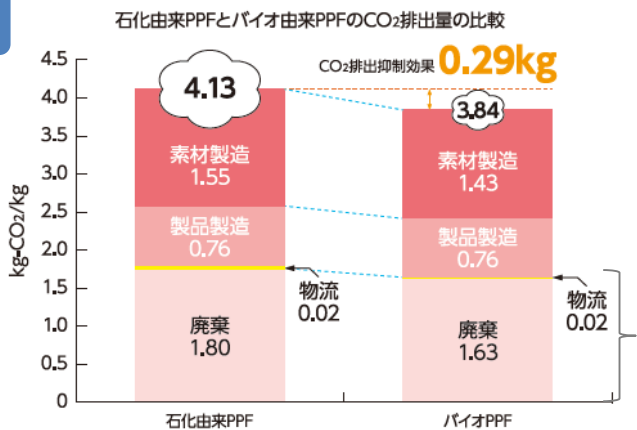
## バイオHIPS

CO<sub>2</sub>排出量  
**-5.75%**



## バイオPPF

CO<sub>2</sub>排出量  
**-7.02%**





# シノブフーズ様 バイオマス製品採用事例



「ペットボトルリサイクル品」刻印



天面に「エコマーク」刻印



(No.608)

日本バイオプラスチック協会  
認定マーク刻印

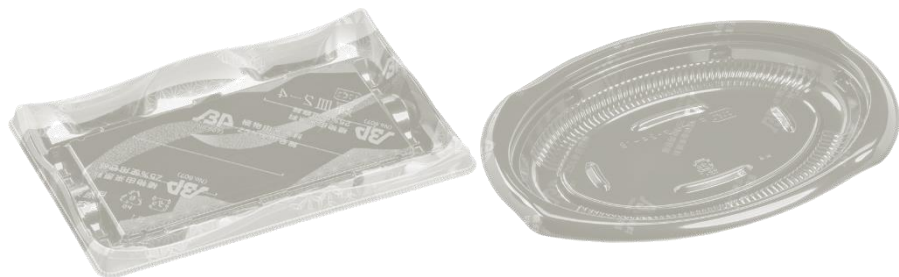
## <シノブフーズ様HPより>

- ・バイオマスプラスチック素材容器の取り組み：NB弁当容器(本体)への採用14アイテム(19アイテム中、73%)
- ・リサイクル素材容器の取り組み：NB弁当容器(蓋)への採用13アイテム(19アイテム中、68%)

# 素材の多様化 及び リサイクル技術の研究

## 新素材

バイオマスプラスチック  
(植物由来)



紙・パルプモールド

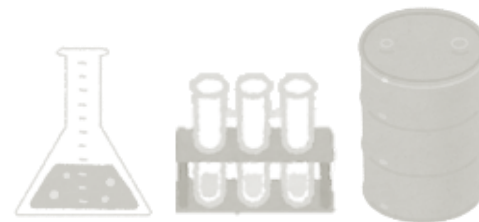


## リサイクル技術

マテリアル  
リサイクル



ケミカル  
リサイクル



# 紙トレイ・紙容器の開発



紙トレイ



FSC®認証紙を使用



FSC®CoC認証  
(FSC®C163782)を  
全事業所及び紙トレイ  
製造工場にて取得済み

※ミックスラベル：適切に管理されたFSC®認証林、再生資源  
およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

耐水・耐油仕様



ラップ包装機に対応



紙丼  
シリーズ



紙弁当容器  
(竹紙)



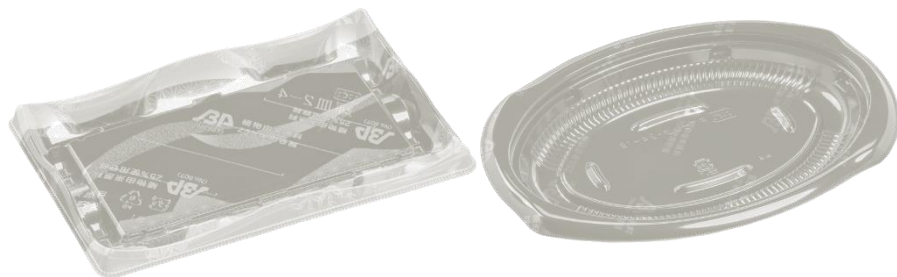
(本体)

(蓋)

# 素材の多様化 及び リサイクル技術の研究

## 新素材

バイオマスプラスチック  
(植物由来)



紙・パルプモールド

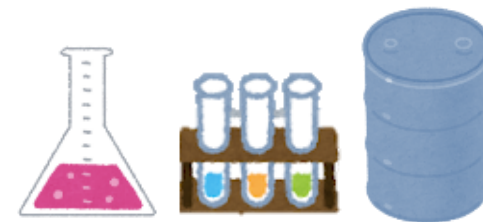


## リサイクル技術

マテリアル  
リサイクル



ケミカル  
リサイクル

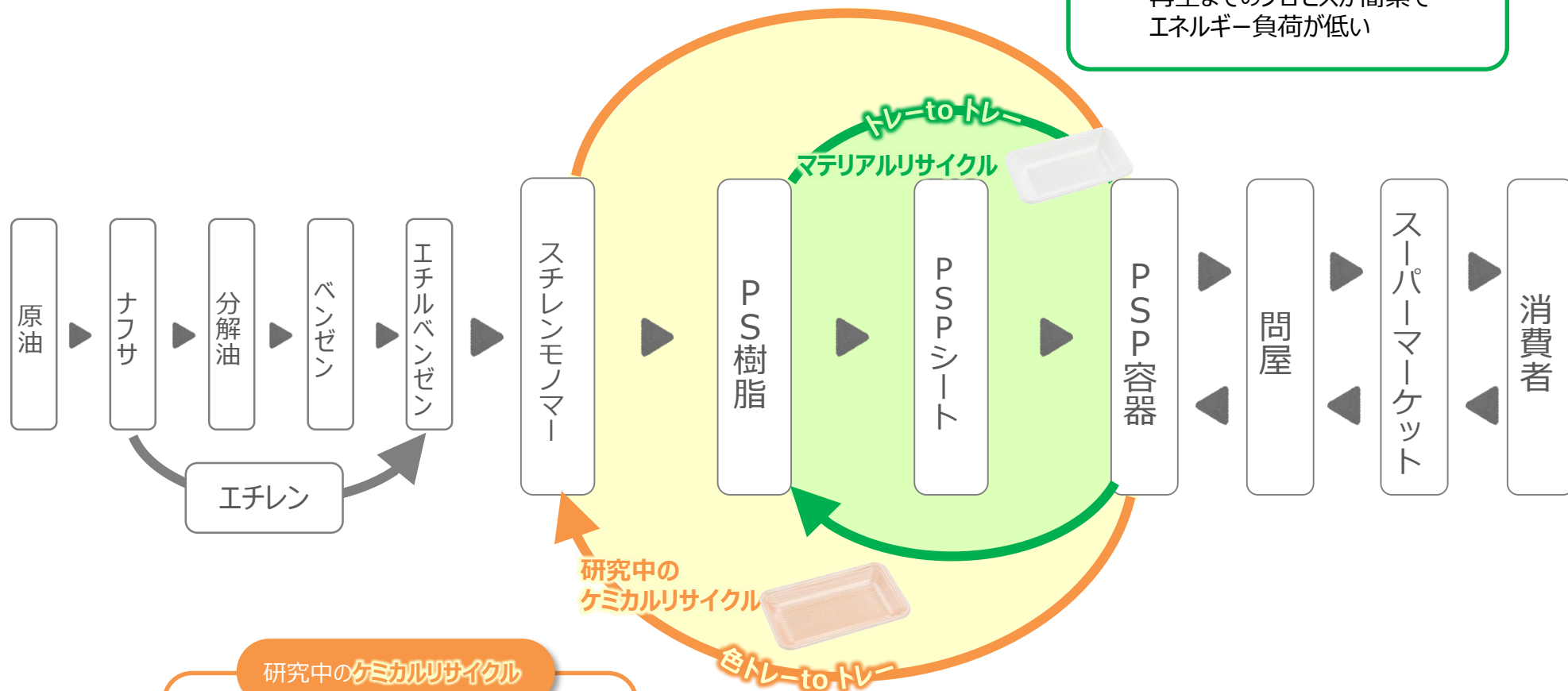


# ケミカルリサイクル実現に向けDIC様と協業検討



## マテリアルリサイクルのいいところ

再生までのプロセスが簡素で  
エネルギー負荷が低い



## 研究中のケミカルリサイクル

- 除染能力が高い
- スチレンモノマーに戻すケミカルリサイクル  
なのでエネルギー負荷が低い

# 能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

8 働きがいも  
経済成長も



10 人や国の不平等  
をなくそう



## 選別

使用済み食品トレー、  
透明容器、PETボトル



## 製造

食品トレー容器の成形、  
組立加工、検品、包装



## 職域拡大への挑戦



特例子会社(エフピコダックス)・就労継続支援A型事業所(エフピコ愛パック)

エフピコグループ内の一般工場、物流の現場

2022年3月時点エフピコグループ

**障がい者雇用人数** : 365名

**障がい者雇用率換算数** : 621.5名

**障がい者雇用率** : 12.6%

## 障がい者雇用 に関する認定

- 2019年1月 (厚労省)  
「H30年度 障害者活躍企業」認証  
(エフピコダックス株)
- 2021年9月 (東洋経済新報社)  
「障がい者雇用率ランキング」 2位



# SDGs お客様の障がい者雇用をサポート



エピコのサポートで  
お取引様を中心に

# 50事業所 751名

の雇用が生まれました

2022年3月末時点

精肉の下味付け



農産品の加工



青果の検品・計量



惣菜加工



コンテナ洗浄



タオルの洗濯



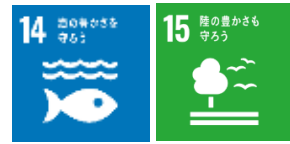
海産物選別



古紙減容



# SDGs エフピコ環境基金の創設



エフピコ環境基金  
The FP Corp. Environment Fund

1990年 「エフピコ方式のリサイクル」をスタート  
約30年に渡りリサイクルに取り組み。

2020年3月「エフピコ環境基金」を創設  
これからの社会的課題の解決をテーマに  
活動する団体へ助成

各企業・NPO法人・研究教育機関等と協力して対処していく

助成先団体の活動（一部紹介）

エフピコグループ社員延べ**137**名もボランティアとして参加

荒川クリーンエイド・フォーラム（東京都）



<活動内容>  
海洋ごみ問題解決のための  
荒川の清掃体験教育

<社員参加人数> 26名

湘南クリーンエイドフォーラム（神奈川県）



<活動内容>  
神奈川県自然海岸の  
ビーチクリーン活動

<社員参加人数> 47名



# SDGs 全国の子ども食堂へ寄贈



## 簡易食品容器 寄贈

対象： NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえがサポートする  
全国の子ども食堂および全国の子ども食堂の地域ネットワーク



寄贈： **合計 752,280セット**

1回目 (2020年 5月29日～)	60,800セット
2回目 (2020年 7月25日～)	81,600セット
3回目 (2020年 9月30日～)	81,600セット
4回目 (2020年12月17日～)	80,000セット
5回目 (2021年 3月 6日～)	80,000セット
6回目 (2021年 9月 1日～)	92,000セット
7回目 (2021年10月27日～)	92,000セット
8回目 (2022年 1月31日～)	92,000セット
9回目 (2022年 4月12日～)	92,280セット

神戸物産

ネスレ日本

はごろも  
フーズ

エフピコ



# SDGs パートナーシップ

## 行政

循環経済パートナーシップのホームページでエピコ方式のリサイクルを紹介



## 海外

国際的なWEBイベント「Circularity 21」へ参加



## 取引先

取引先様とともに行うSDGsイベントへ参加



## 金融

持続可能な社会の促進を目的とした融資金融機関との融資契約

■ 三井住友信託銀行株式会社  
「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」による資金調達

■ 株式会社日本政策投資銀行  
「DBJ-対話型サステナビリティ・リンク・ローン」による資金調達

# SDGs ESG評価

フツィー  
ESG指数「FTSE4Good Index Series」及び  
「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に継続選定（2021年6月）  
「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に初選定（2022年3月）



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

ロンドン証券取引所グループの「FTSE Russell」が開発した、環境・社会・企業統治（ESG）に対して優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを反映するインデックス

「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」の構成銘柄に選定（2021年12月）

2022 CONSTITUENT MSCI日本株  
女性活躍指数 (WIN)

「MSCI」社が開発、職場において高いレベルで性別多様性を推進する企業を対象に構築

# 安定供給

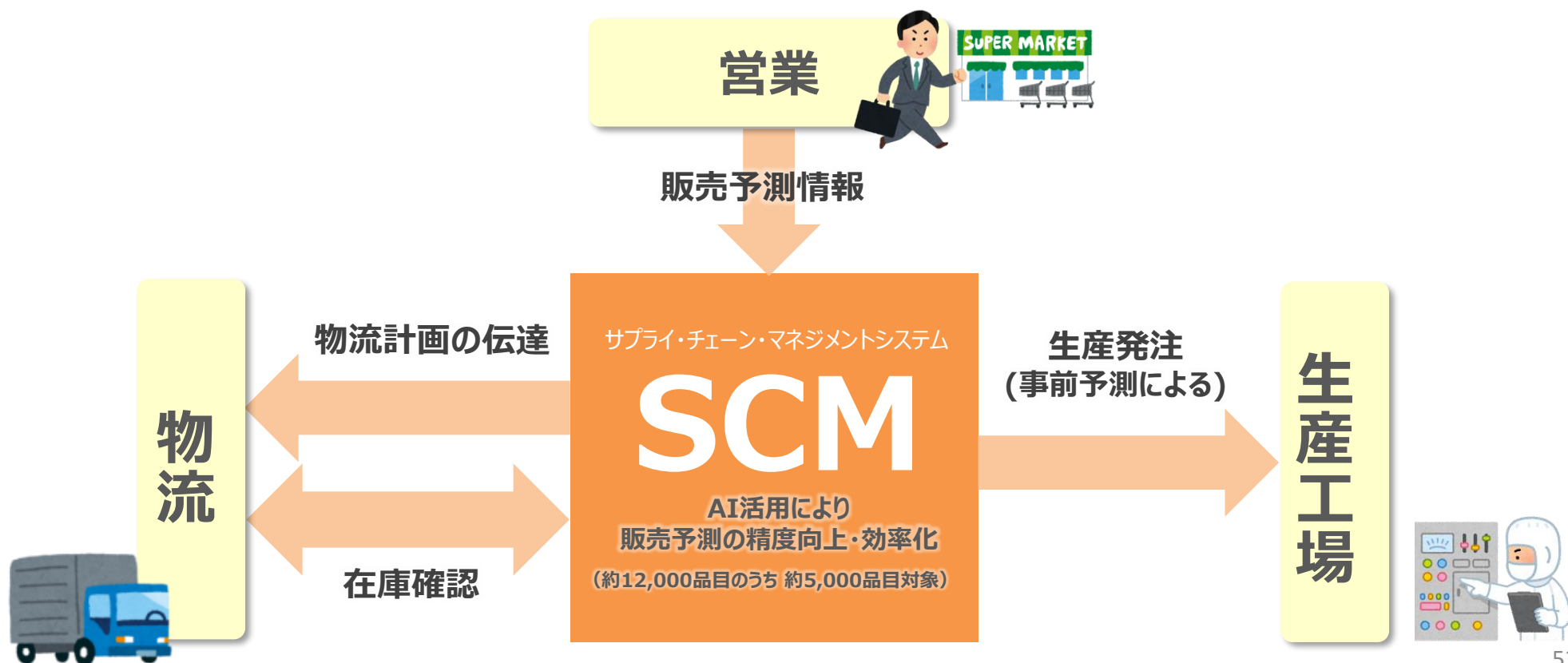


# 安定供給 – 安全・安心な食生活を支える

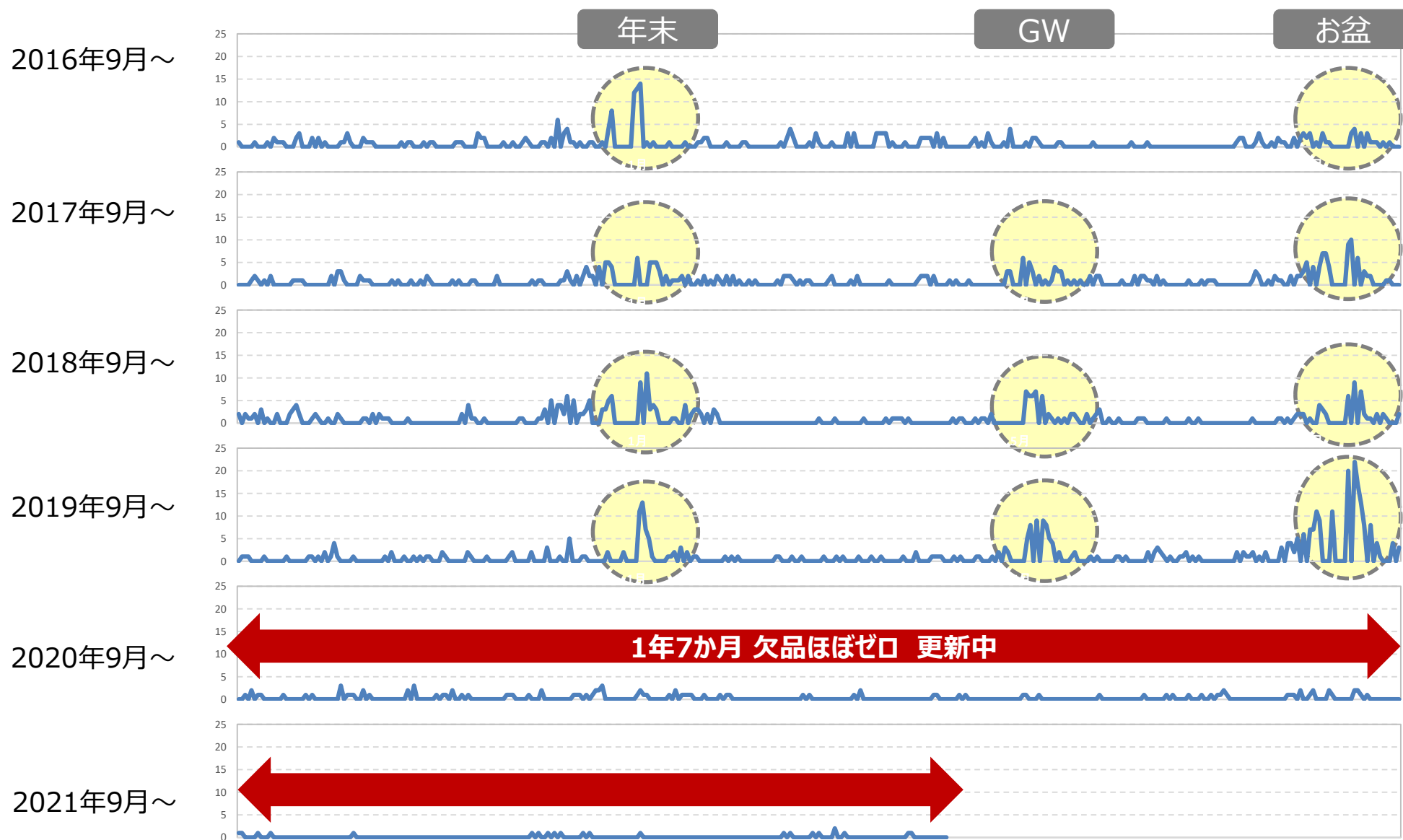
☑ 約12,000アイテムの品揃え

☑ 適正な在庫水準を維持

サプライ・チェーン・マネジメントシステムの力



# 安定供給 - 欠品件数の推移



# 物流費上昇を抑制する取組み (販売配送)

自社便比率UP

2022年3月

97.8%

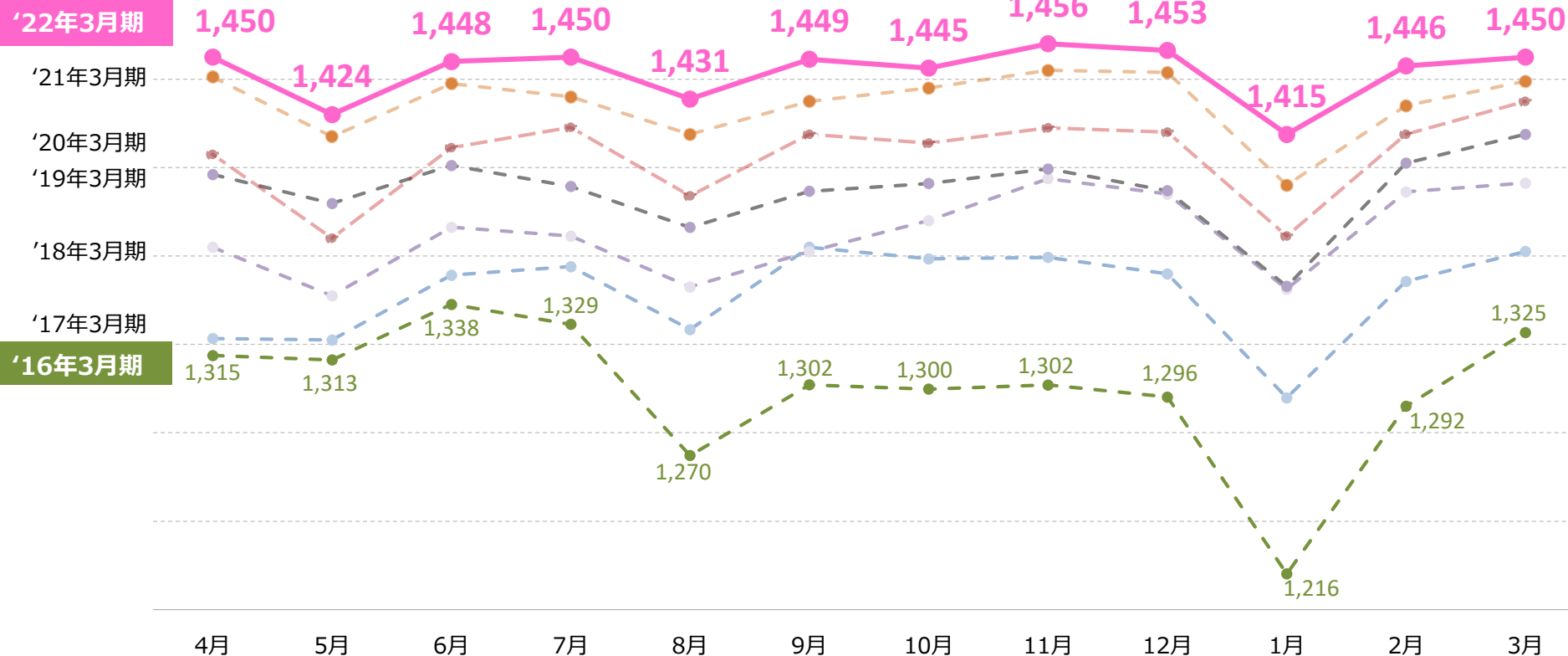
1台あたりの積載効率UP

2022年3月期  
2016年3月期

111.0%

(才数/台)

< 1台あたりの積載効率 >

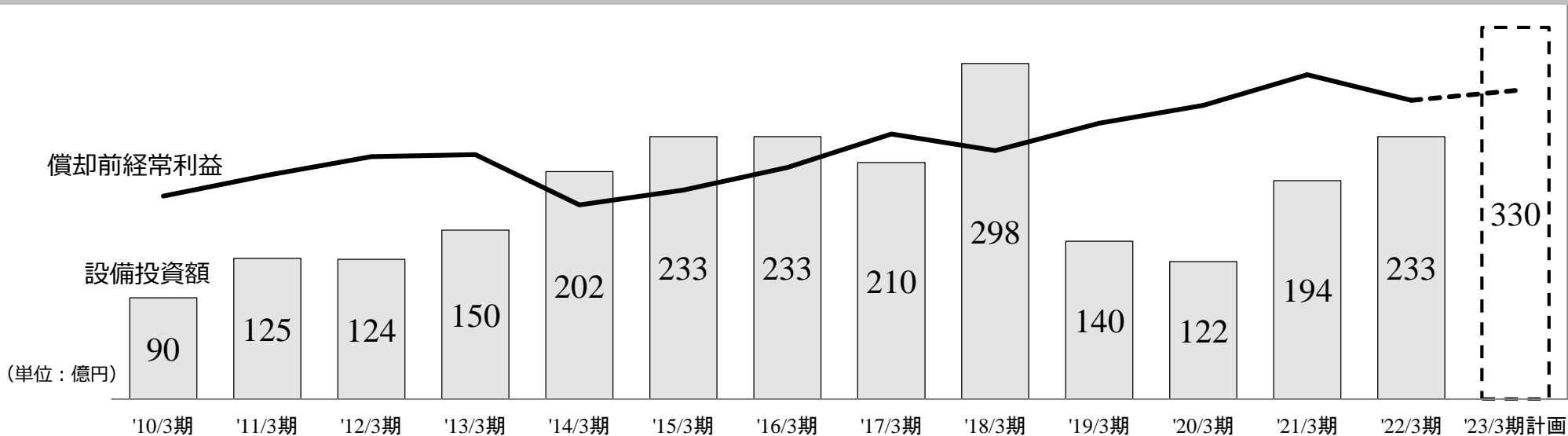


# 戦略投資





# エピコの戦略投資



年間約200億円の投資水準

## 世界初の素材開発

- 2010年 マルチFP(MFP)製品 上市
- 2012年 マルチソリッド(MSD)製品 上市
- 2012年 エコAPET 製品 上市
- 2012年 OPET 製品 上市
- 2012年 新透明PP 製品 上市
- 2014年 PPi-タルク 製品 上市
- 2022年 耐寒PPi-タルク 製品 上市

電子レンジ・冷凍市場拡大

## 物流網構築

- 2014年 福山ハブセンター
- 2015年 八王子HC

路線便値上がり

## リサイクル増強

- 2016年 中部エコペット工場
- 2017年 関東エコペット工場

ESG投資拡大

## 物流網構築

- 2020年 九州HC拡充
- 2020年 福山ハブセンター拡充
- 2021年 中部ハブセンター拡充
- 2022年 関西ハブセンター

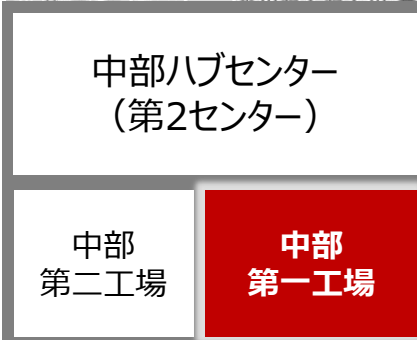
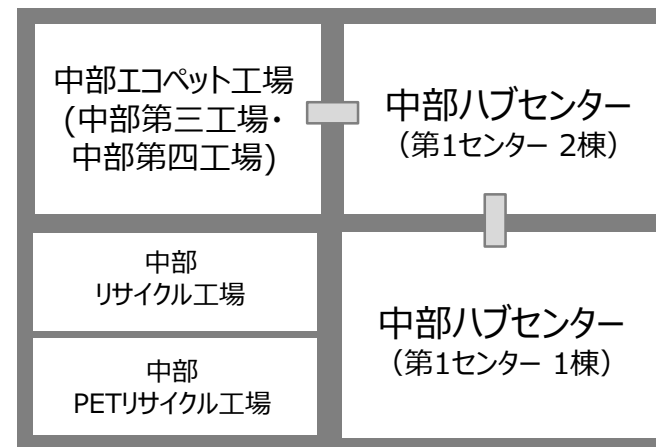
## 人への投資

- 単身寮PicoHouse
- 自動化
- 制度・基準変更

# 中部第一工場建設

## 中部第一工場

完成時期：2022年5月  
 投資額：8,049百万円  
 (圧縮記帳後 5,820百万円)  
 延床面積：20,902㎡



# 関西新拠点（関西工場・関西ハブセンター）

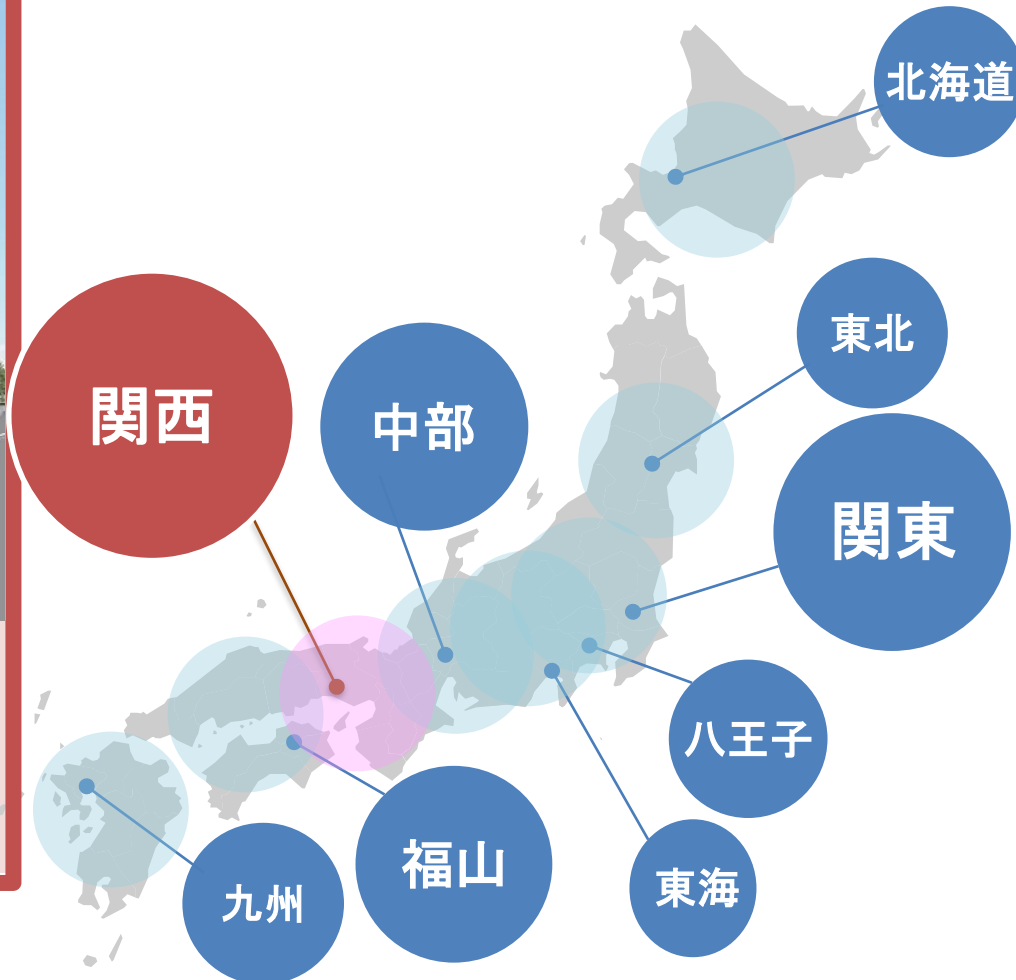
関西工場・関西ハブセンター



完成時期：2022年9月  
投資額：253億円  
延床面積：79,511㎡

- ✓ 福山エリアより物流・生産能力約3割移行
- ✓ 2022年9月 産業団地内の別区画を追加取得予定  
土地取得額：940百万円  
敷地面積：29,130㎡

半径150kmで主要都市を含む  
全人口の7割をカバーできるネットワークが完成

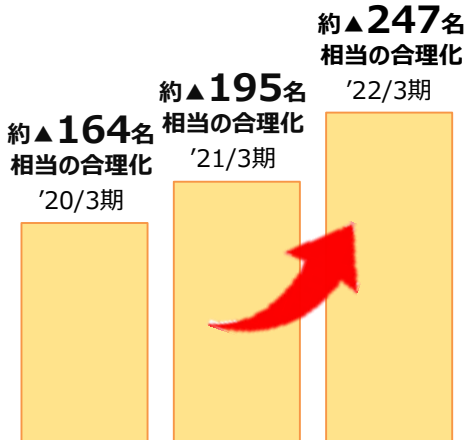


# 茨城県内の工場・配送センター建設用地取得



# 人への投資① 自動化

## 生産部門



- ケース梱包ロボット 22台
- 自動除塵包装機 8台
- 自動包装機 95台 → **110台**  
'22/3期 '23/3期見込

## 物流部門



倉庫内を無人で水平移動し省人化

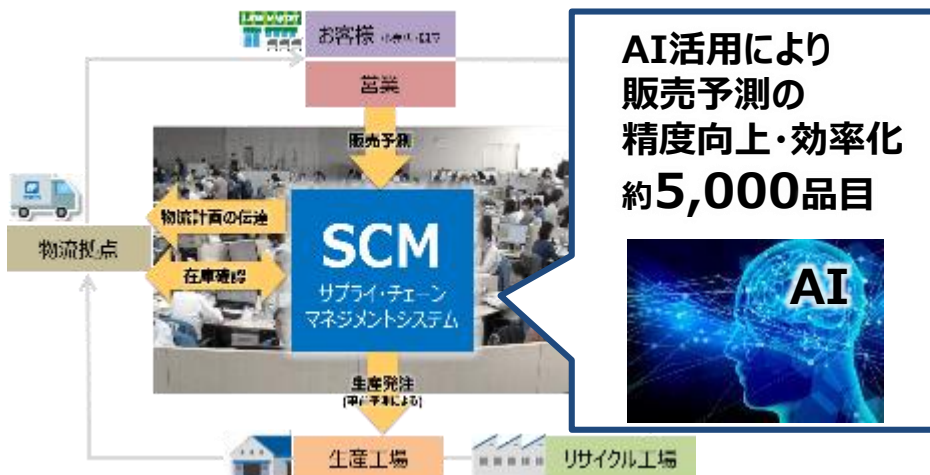
AGV（無人搬送車）  
29台  
'22/3期



レーザーを利用して無人でパレット搬送や格納し省人化

AGF（無人搬送フォークリフト）  
2台導入 → **6台導入**  
'21/3期 '23/3期見込

## SCM部門



## 情報システム

年間 約**31,000**時間削減  
'22/3期

- プログラム開発 約**15,000**時間
- RPA活用 約**13,000**時間
- 既存機能・業務見直し 約**3,000**時間



# 人への投資② 働く環境整備

## 单身寮PicoHouse



完成時期：2022年9月  
所在地：兵庫県小野市

PicoHouse1～5号館 総戸数 473戸

## 障がい者グループホーム



完成時期：2020年4月  
所在地：広島県福山市  
「ホーム・COパール」

<見取り図> 1階



地域の学習支援・  
療育支援などに  
活用予定



利用者の  
共同生活住居



## 女性活躍推進

1. 2022年以降、採用の女性比率について**総合職30%以上**を目指す
2. 2026年までに**女性管理職を50人**にする（うち課長職以上を5人以上）
3. 2026年までに**男性の育児休業の取得率を30%以上**にする



## 制度・基準 変更

1. **5日間の連続有給休暇(スマイル休暇)取得を義務化**(2019年3月期)
2. 一部グループ会社の**退職金制度変更**(2019年3月期)
3. 一部グループ会社の**給与水準向上**(2020年3月期)
4. **テレワークの制度化**(2021年3月期)
5. **ボランティア活動への特別休暇制度導入**(2021年3月期)
6. **時間単位の有給休暇制度を導入**(2021年3月期)
7. **選択式定年制を導入**(2022年3月期)

# 成長戦略



# エフピコの成長戦略

長期目標 売上 **3,000**億円  
 経常利益 **300**億円

'23/3計画 売上 **2,120**億円  
 経常利益 **170**億円

商品

**+600**億

包装資材全般

製品

**+400**億

新市場(デリバリー・給食・冷凍など)  
 シェア増

リサイクルおよび代替素材の研究開発

紙・パルプモールド



ケミカルリサイクル

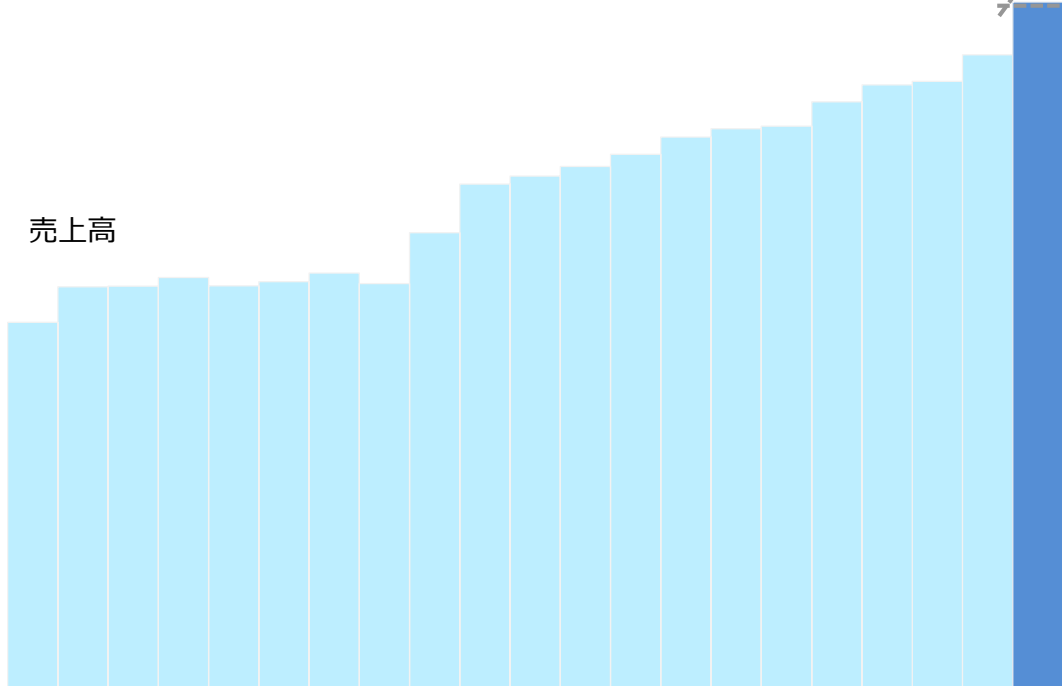


バイオマスプラスチック  
 (植物由来)



M & Aの検討

売上高



'03/3期 '06/3期 '09/3期 '12/3期 '15/3期 '18/3期 '23/3期計画 長期目標

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用



# M&A 積水ヒノマル事業譲受

名称 : 積水ヒノマル株式会社  
所在地 : (本社) 熊本、福岡  
(営業所) 福岡、鹿児島、広島、大阪、東京  
(工場) 佐賀、茨城  
譲受事業 : 成形品事業  
取扱品 : 練物・塩干・明太子などPSPトレイの品揃え  
売上高 : 約52億円 (成形品事業のみ)  
転籍人数 : 139名 (営業38名、工場・倉庫101名)  
※契約社員・パート社員含む  
譲受日 : 2020年10月1日



## インフラ統合による効果

### SCM 安定供給

### 生産 生産ラインの集約・増設 生産体制の見直し

### 販売 取扱品・取引先拡大

### 物流 路線便削減・借庫返却

自社便使用による路線便運賃削減

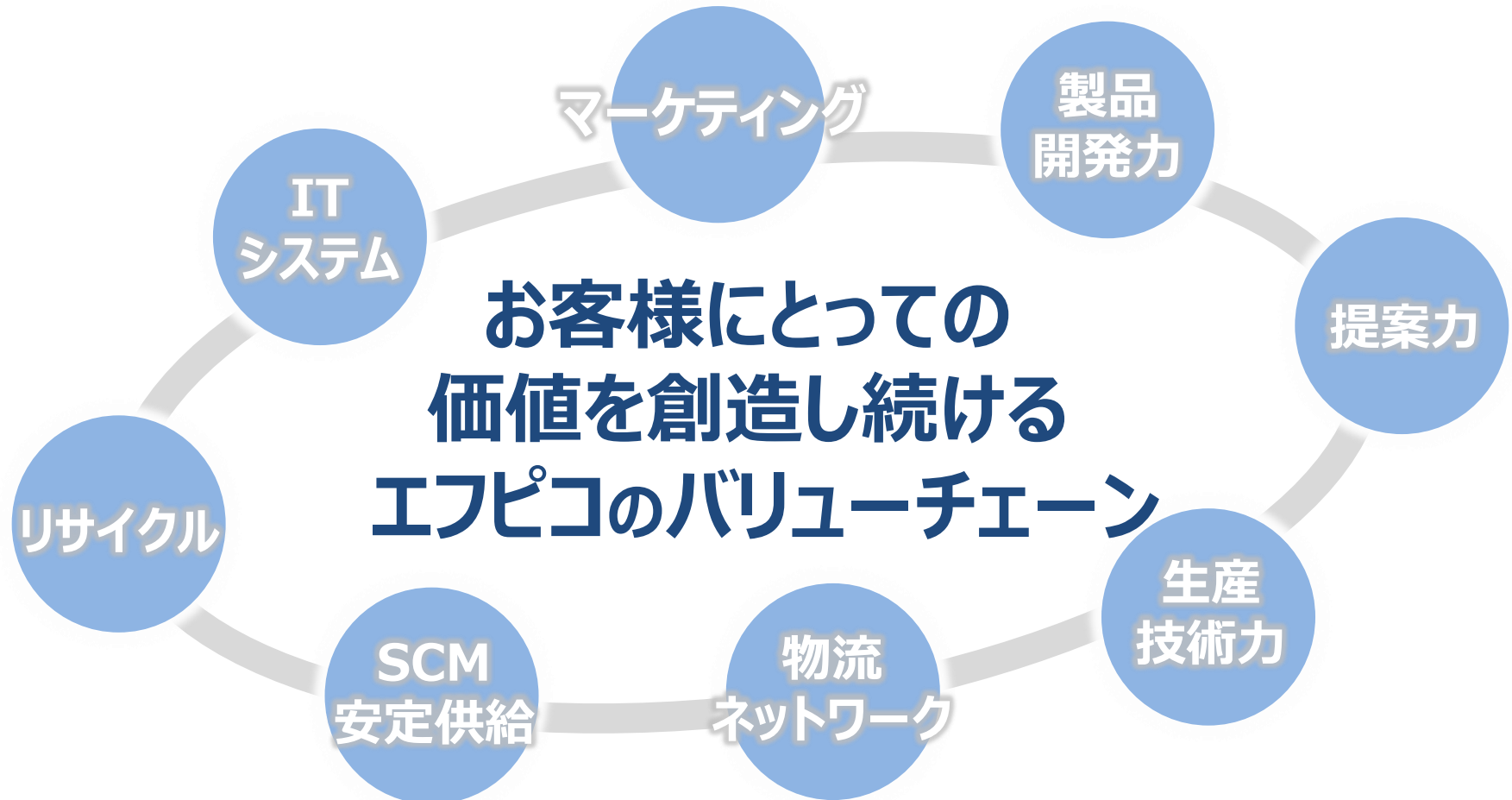
自社便の積載効率向上による運賃削減

借庫返却に伴う倉庫コスト削減

改善効果 約3億円/年

# 企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」  
「どこよりも競争力のある価格で」  
「必要なときに確実にお届けする」



# 添付資料

---

# 用語解説

PS : ポリスチレン

PET : ポリエチレンテレフタレート

PP : ポリプロピレン

マルチFP (MFP) 容器 : -40℃～+110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS (ポリスチレン) 容器 (2010年販売開始)

マルチソリッド (MSD) 容器 : マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器  
耐熱温度+110℃ (2012年販売開始)

新透明PP容器 : 標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度+110℃ (2012年販売開始)

OPS容器 : 従来からの二軸延伸PS (ポリスチレン) シートから成形した透明容器 耐熱温度+80℃

耐寒PPi-タルク容器 : 従来の耐寒PPフィルター容器と比較し、強度を保ちながらプラスチック使用量を削減した容器 (2022年販売開始)

エコトレー : スーパーで店頭回収されたPS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器 (1992年販売開始)

エコAPET容器 : スーパーで店頭回収されたPET透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とする  
リサイクルPET (ポリエチレンテレフタレート) 透明容器 耐熱温度+60℃ (2012年販売開始)

エコOPET容器 : エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PETシートから成形したリサイクルOPET透明容器  
耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度+80℃ (2016年販売開始)

バイオHIPS容器 : 植物由来原料を25%含んだHIPS (非発泡ポリスチレン) 容器 (2020年販売開始)

バイオPPF容器 : 植物由来原料を25%含んだPPF (フィルター入りポリプロピレン) 容器 (2020年販売開始)

FSC® : Forest Stewardship Council®(FSC®)は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする国際的な非営利団体。  
FSC は、環境、社会、経済分野の利害関係者の合意によって支持された、責任ある森林管理の原則に基づく規格を定めています。

配送センター : 製品をケース単位で出荷

ピッキングセンター : 製品及び商品を小分けピッキングし出荷

選別センター : 店頭回収したPS容器を白と色に、店頭回収した透明容器をPS・PET・PP等の素材に、それぞれ選別

# 世界初の素材・シート

**PP** : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難く、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

**PP-タルク**

- ☆ 強度を保ちながらプラスチック使用量削減

**新透明PP**

- ☆ 耐熱性がある : +110℃
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等

**PET** : ポリエチレンテレフタレート

- ☆ 最後発 樹脂
- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60℃
- ★ 比重が大きい

**OPET** : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80℃
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい

**PS** : ポリスチレン

**PSP** : 発泡PS

- ☆ 成形性が高い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80℃
- ★ 耐油性に劣る

**MFP** : マルチFP

: 発泡PS

- ☆ 成形性が高い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 幅広い温度帯をカバー  
-40℃ ~ +110℃
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能

マルチFP端材の循環

**MSD** : マルチリッド

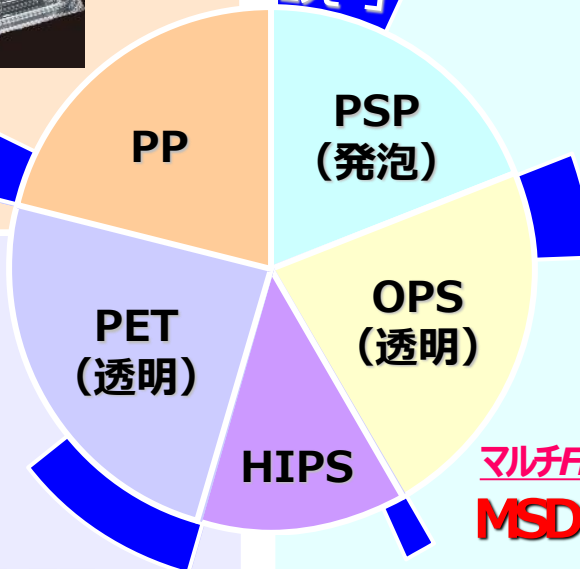
: 非発泡PS

**OPS** : 二軸延伸PS

- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80℃
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界



エフピコ

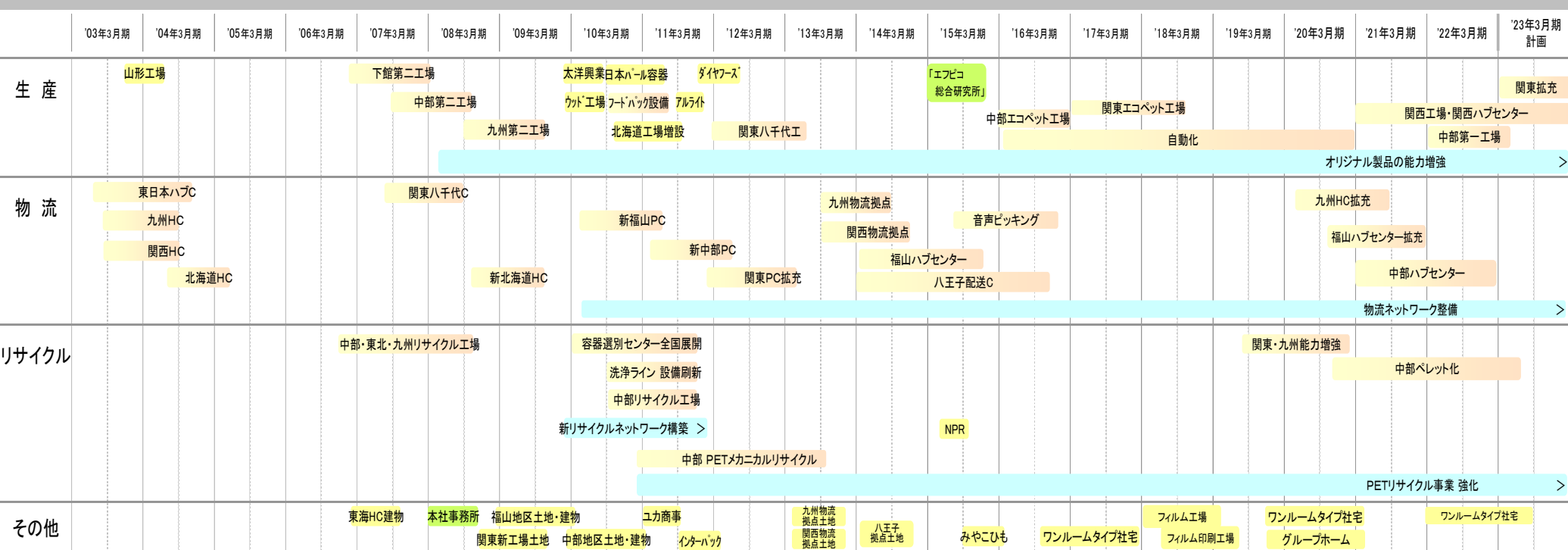


# 経常利益 増減要因 推移

単位: 億円

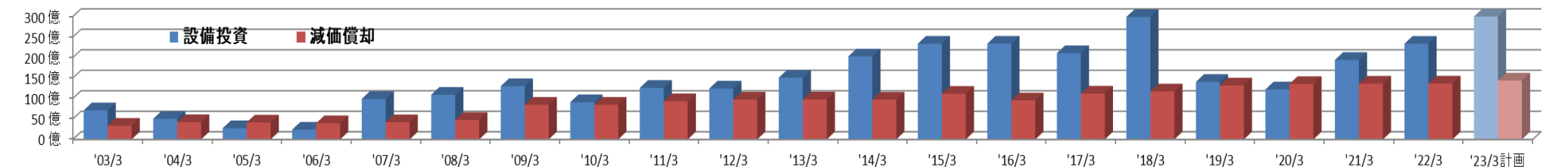
	'03/3	'04/3	'05/3	'06/3	'07/3	'08/3	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3	'14/3	'15/3	'16/3	'17/3			'18/3			'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3計画								
																上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期					
前期 経常利益	63.1	28.6	33.6	36.3	66.5	81.2	64.5	92.9	122.2	134.7	149.5	151.2	100.5	101.1	66.3	74.0	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0						
原料価格	-6.0	-13.8	-36.5	-10.0	-13.0	-39.5	-37.0	-25.0																																	
販売価格	-25.0	+7.7	+29.2		+4.0	+9.0	+38.0	+25.0																																	
販売活動																																									
生産	+2.4	-0.6	-2.0	+6.0	+8.7	+3.0	+2.5	+9.5	+12.0	+9.0	+2.5	+1.0	+4.0	+12.0	+3.2	+1.1	+4.3	-3.2	-4.0	-7.2	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	-10.0	+1.0	-9.0			
物流	+0.3	-14.0	+12.2	+5.5	+8.0	+5.7	+5.0	+9.5	+8.0	+4.0	+1.5	+1.0	-1.0	+1.5	-3.0	-2.7	-5.7	+0.5	+1.0	+1.5	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-	-	-			
グループ会社																																									
経費増減	-6.2	-19.3	-3.2	+4.2	-7.4	-9.7	-15.6	-12.7	-11.5	-13.2	-15.3	-17.0	-22.0	-17.6	-3.7	-2.4	-6.1	-3.1	-2.3	-5.4	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-	-	-			
増減計	-34.5	+5.0	+2.7	+30.2	+14.7	-16.7	+28.4	+29.3	+12.5	+14.8	+1.7	-51.0	+0.5	+39.2	+12.8	+4.3	+17.1	-12.8	-9.1	-21.9	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-35.1	+38.1	+3.0	+3.0	+3.0	+3.0			
当期 経常利益	28.6	33.6	36.3	66.5	81.2	64.5	92.9	122.3	134.7	149.5	151.2	100.5	101.1	140.3	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	54.0	116.0	170.0	170.0	170.0	170.0			

# 設備投資 推移



単位: 百万円

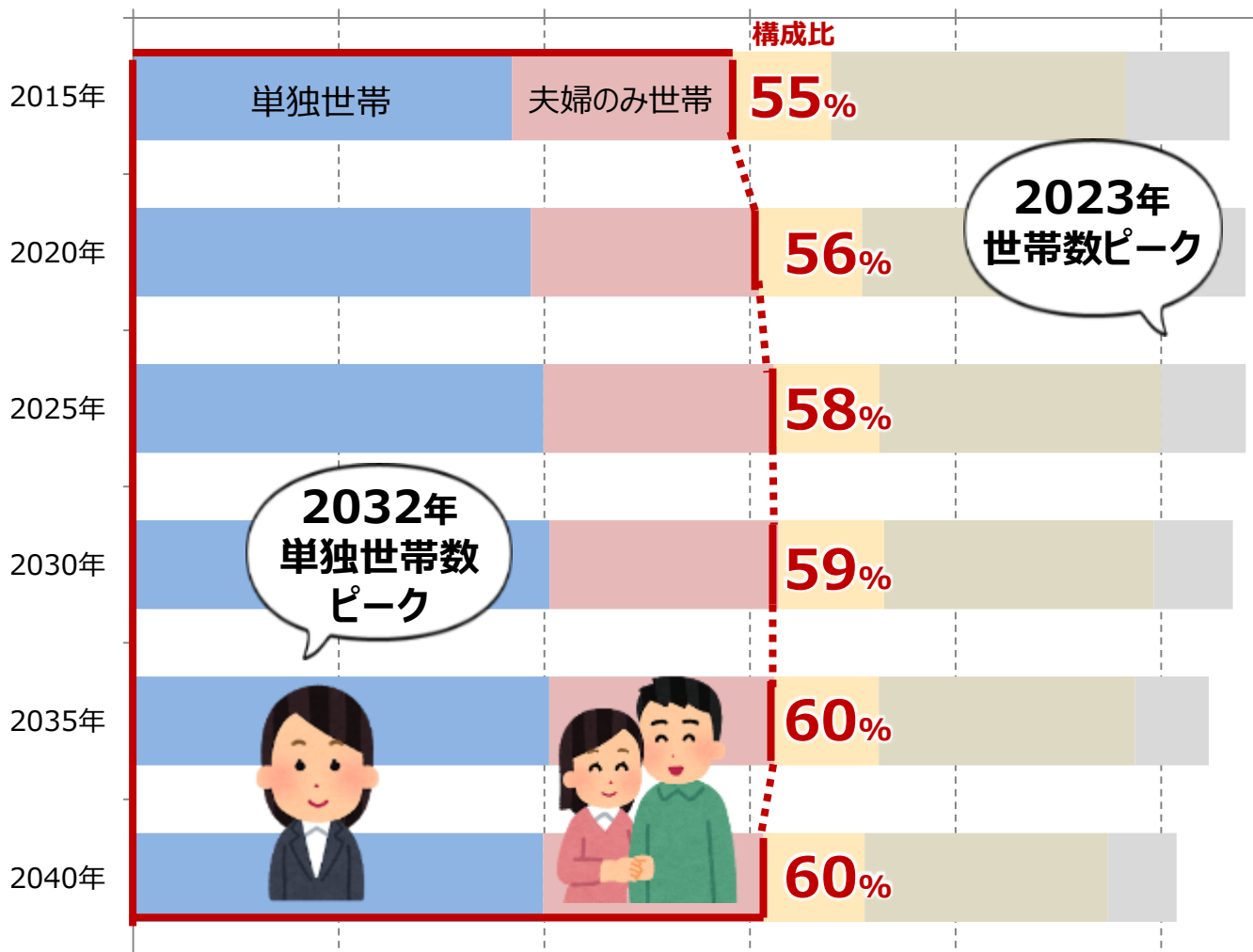
	'03年3月期	'04年3月期	'05年3月期	'06年3月期	'07年3月期	'08年3月期	'09年3月期	'10年3月期	'11年3月期	'12年3月期	'13年3月期	'14年3月期	'15年3月期	'16年3月期	'17年3月期	'18年3月期	'19年3月期	'20年3月期	'21年3月期	'22年3月期	'23年3月期計画
設備投資	7,096	5,037	2,742	2,394	9,885	10,909	13,007	9,090	12,585	12,423	15,087	20,258	23,377	23,383	21,060	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	33,000
有形	6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	12,166	8,827	12,352	12,093	14,783	19,751	23,051	23,058	20,790	29,342	13,442	11,688	19,105	23,084	32,800
無形	958	789	120	238	362	254	841	263	233	329	303	506	325	324	269	549	595	525	306	277	200
内 金型	780	460	436	550	771	609	1,892	1,507	1,833	1,946	1,425	2,151	2,416	1,777	2,028	1,485	1,462	1,756	1,426	2,028	1,710
減価償却	3,339	4,210	4,134	3,965	4,194	4,742	8,467	8,461	9,316	9,728	9,746	9,703	11,136	9,526	11,183	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,380
研究開発	654	628	689	751	895	913	965	1,035	1,101	1,051	1,062	1,148	1,105	1,242	1,223	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,397



>> '09年3月期より設備投資には、リース調達を含む投資額を表示しております。

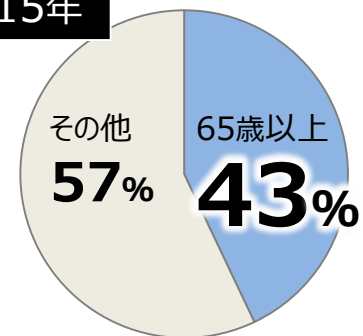
# 世帯数の推移

- 単独世帯
- 夫婦のみの世帯
- ひとり親と子から成る世帯
- 夫婦と子から成る世帯
- その他の一般世帯

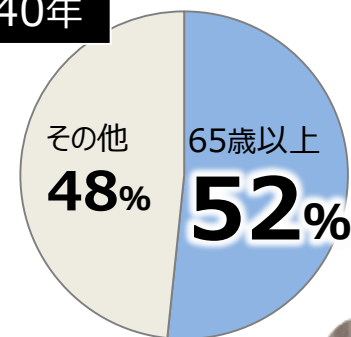


## 単独世帯・夫婦のみ世帯における 65歳以上の割合

2015年



2040年

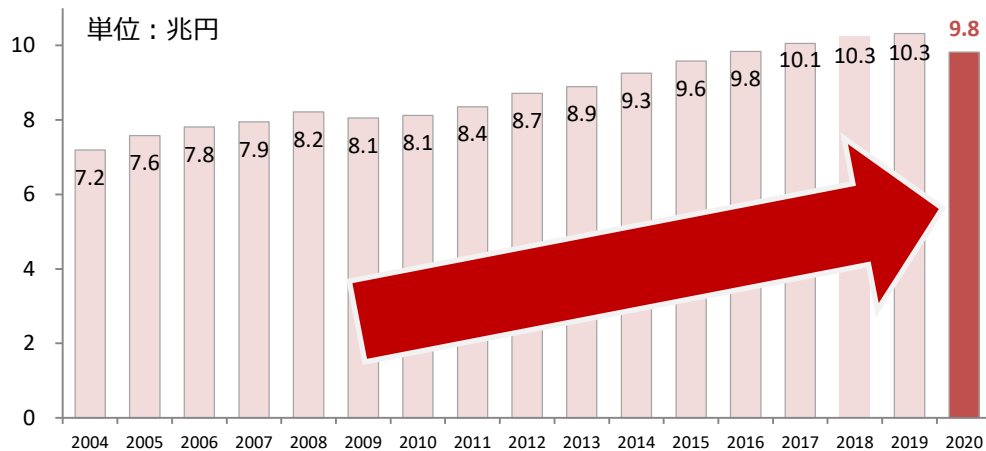


25年で9%増加





# 中食市場規模推移



出典：一般財団法人 日本惣菜協会「惣菜白書」、一般社団法人 日本フードサービス協会、その他 当社推定情報を基に当社にて作成

2020年度  
**中食市場**  
 約**9.8**兆円

内食 約36.4兆円



外食 約26.0兆円



大手食品メーカー



## 今後の成長マーケット

**家庭用冷凍食品**  
 約**3,900**億円  
 2021年

出典：一般社団法人 日本冷凍食品協会「冷凍食品の国内生産及び消費」

**デリバリー**  
 約**4,600**億円  
 2020年

出典：富士経済「外食産業マーケティング便覧2021」

**テイクアウト**  
 約**12,500**億円  
 2020年

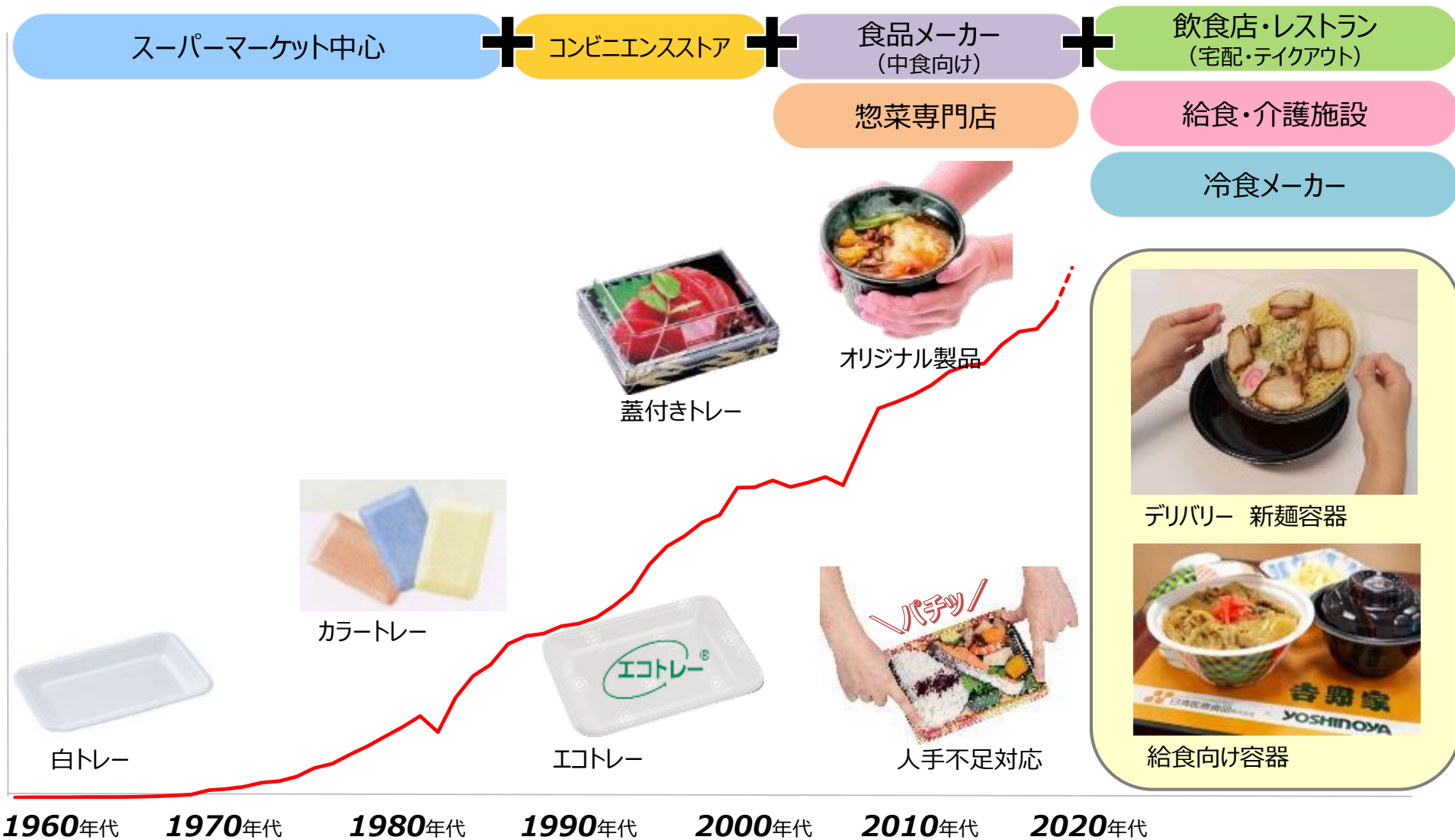
出典：富士経済「外食産業マーケティング便覧2021」

**高齢者向け施設給食**  
 約**9,600**億円  
 2020年

出典：富士経済「外食産業マーケティング便覧2021」

# 拡大するマーケット

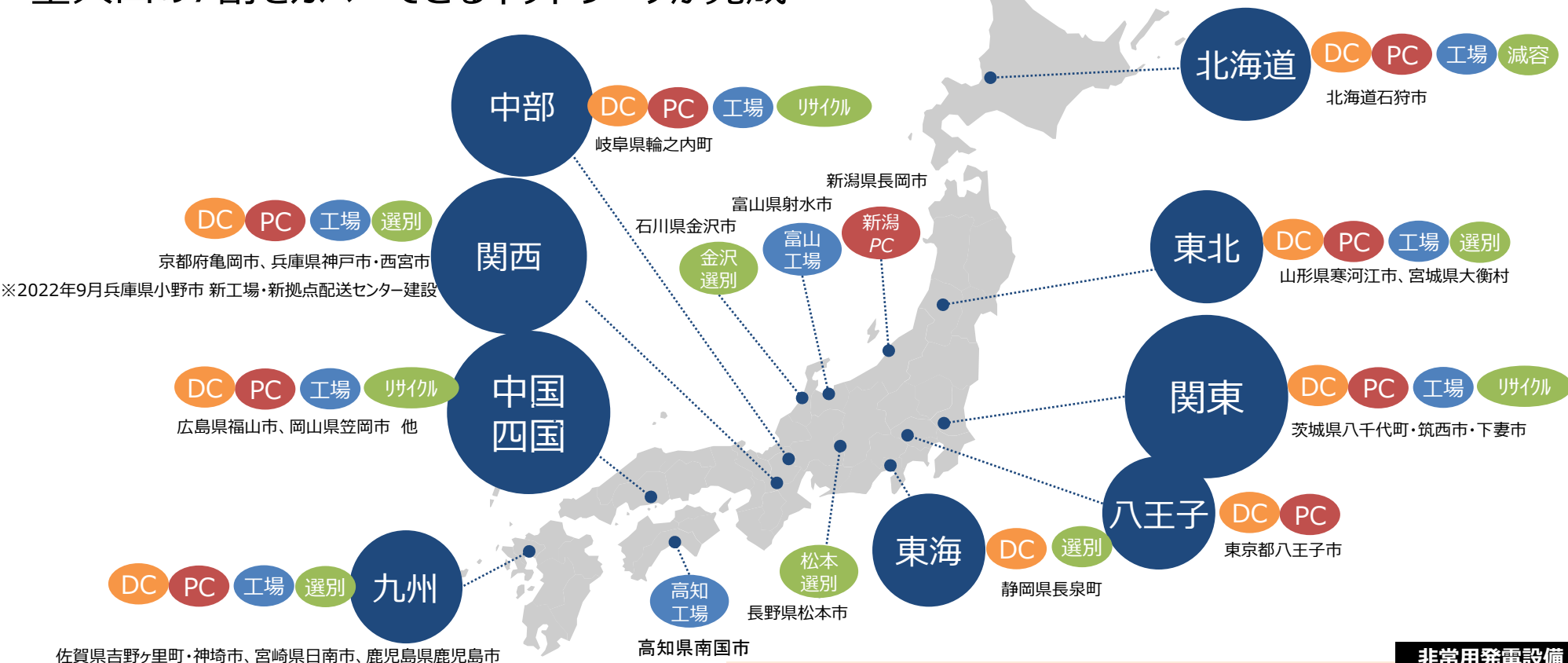
エフピコグループ  
売上高



# 全国を網羅する生産・物流拠点

エフピコは **各エリアで 生産・配送が可能**  
 半径150kmで主要都市を含む  
 全人口の7割をカバーできるネットワークが完成

配送センター	9拠点
ピッキングセンター	10拠点
選別工場	10拠点
リサイクル工場	3拠点



BCP(事業継続計画) “災害時の安定供給”  
 全国21物流施設すべてに、非常用発電設備を設置  
**72時間**の電力供給を確保、燃料備蓄

非常用発電設備



# 設備投資・キャッシュフロー

## 営業キャッシュフロー

### ● 設備投資 180~250億 目途

中長期的な成長に向け、高付加価値製品の供給体制を充実

#### 【重点投資分野】

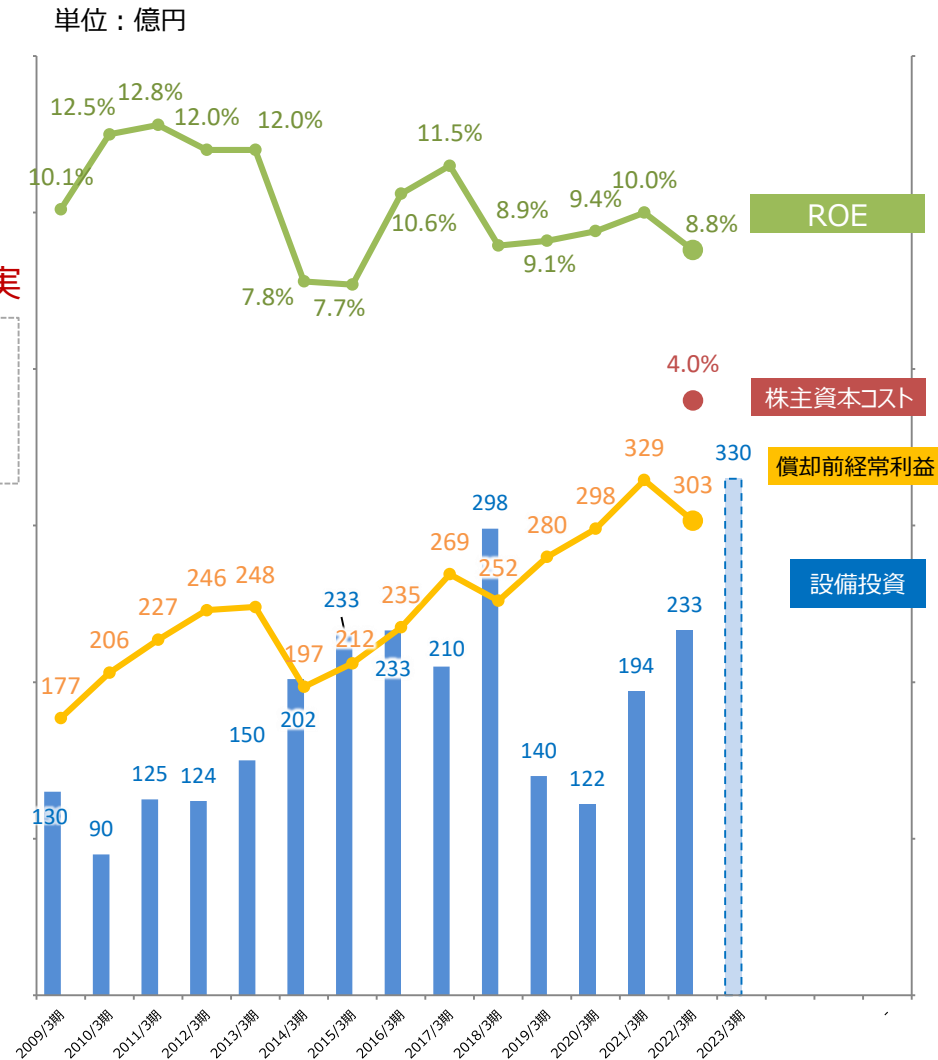
- ・リサイクル及びエコ製品の市場要請
- ・安定供給のための体制整備

### ● 連結配当性向 30% 目途

安定的かつ継続的な配当実施  
1株当たり利益の最大化

### ● 自己株式の取得

### ● 有利子負債調整



# ガバナンス体制

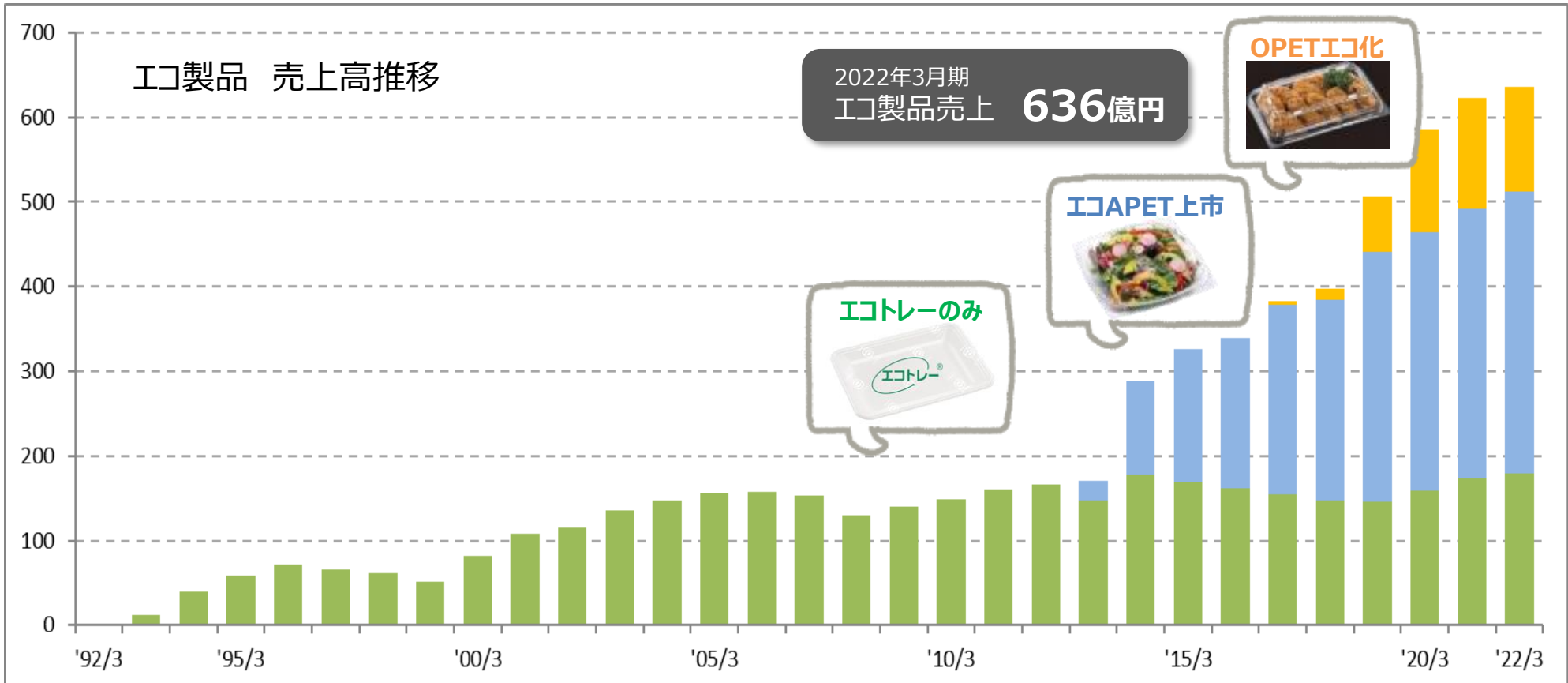
単位：名

	2019.6	2020.6	2021.6	2022.6 ※
<b>組織形態</b>	監査等委員会設置会社			
<b>取締役 総数</b>	17	17	18	17
うち、独立社外取締役 (構成比)	2 11.8%	3 17.6%	4 22.2%	6 35.3%
<b>指名諮問委員会 全委員</b> (2021年2月設立)	—	—	3	3
うち、独立社外取締役 (構成比)	— —	— —	1 (委員長) 33.3%	2 (委員長含む) 66.7%
<b>報酬諮問委員会 全委員</b> (2020年5月設立)	—	3	3	3
うち、独立社外取締役 (構成比)	— —	1 (委員長) 33.3%	1 (委員長) 33.3%	2 (委員長含む) 66.7%

※取締役：2022.6 株主総会にて取締役候補者全員が承認された場合

指名・報酬委員会：2022.3 取締役会にて決議

# リサイクル投資 と エコ比率



製品全体エコ化率  
枚数ベース、通期

'13/3期  
**24%**

'22/3期  
**44%**

PET製品エコ化率(OPET含む)  
枚数ベース、通期

'14/3期  
**52%**

**100%**

再生PET原料供給能力

'11/3期  
**1万トン**

'23/3期見込み  
**6.5万トン**

# 海洋プラスチック問題 世界と日本の動向

## 世界の動向

2017年 **中国** 廃棄物輸入規制をWTOに通知

2018年 **G7** 海洋プラスチック憲章

2019年

2021年

### バーゼル条約改正

一部の廃プラスチックが輸出規制の対象に

<規制対象外となるプラスチックの具体例>

- ①ペレット状のプラスチック
- ②フレーク状またはフラフ状かつ、ほとんど無色透明又は単一色のプラスチック
- ③製品の製造工程等から排出されるシート状、ロール状、又はベール状のプラスチック
- ④インゴット状の発泡ポリスチレン（PS）

## 日本の動向

### 環境省 プラスチック資源循環戦略

(マイルストーン抜粋)

- ・**2030年**までに容器包装の**6割**をリユース・リサイクル
- ・**2035年**までに使用済みプラスチックを**100%**リユース・リサイクルなどにより有効利用
- ・**2030年**までにバイオプラスチックを**約200万トン**導入

### プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

(概要抜粋)

【製造・販売事業者等による自主回収】

- 製造・販売事業者等が製品等を**自主回収・再資源化する計画**を作成する。

→ 主務大臣が認定した場合に、認定事業者は廃棄物処理法の**業許可が不要**に。

# 環境省 プラスチック資源循環戦略

## カナダ・シャルルボアG7サミット 「海洋プラスチック憲章」

代替品が環境に与える影響の全体像を考慮し、使い捨てプラの unnecessary 使用を最大限に削除する。

2030年までに100%のプラスチックが、再使用可能、リサイクル可能又は、実行可能な代替品が存在しない場合には、熱回収可能となるよう産業界と協力する。

2030年までにプラスチック包装の最低55%をリサイクル又は再使用し、2040年までには全てのプラスチックを熱回収含め100%有効利用するよう産業界及び政府の他のレベルと協力する。

適用可能な場合には、2030年までにプラスチック製品においてリサイクル素材の使用を少なくとも50%増加させるべく産業界と協力する。

## 環境省 プラスチック資源循環戦略 「マイルストーン」

### リデュース

消費者はじめ国民各界各層の理解と連携協働の促進により、代替品が環境に与える影響を考慮しつつ、**2030年までに、ワンウェイのプラスチック（容器包装等）をこれまでの努力も含め累積で25%排出抑制**するよう目指します。

### リユース・ リサイクル

2025年までにプラスチック製容器包装・製品のデザインを、容器包装・製品の機能を確保することとの両立を図りつつ、技術的に分別容易かつリユース可能又はリサイクル可能なものとするを旨指します。（それが難しい場合にも、熱回収可能性を確実に担保することを旨指します。）

**2030年までに、プラスチック製容器包装の6割をリユース又はリサイクル**するよう、国民各界各層との連携協働により実現を旨指します。**2035年までに、すべての使用済みプラスチックをリユース又はリサイクル**、それが技術的経済的な観点等から難しい場合には熱回収も含め**100%有効利用**するよう国民各界各層との連携協働により実現を旨指します。

### 再生利用・ バイオマス プラスチック

適用可能性を勘案した上で、政府、地方自治体はじめ国民各界各層の理解と連携協働の促進により、**2030年までに、プラスチックの再生利用(再生素材の利用)を倍増**するよう目指します。

導入可能性を高めつつ、国民各界各層の理解と連携協働の促進により、**2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万ト）導入**するよう目指します。



# 関連省庁・団体との連携

## 関連省庁・団体の活動

## エピコの参加状況

### 環境省

- **プラスチック資源循環戦略**  
…2019年6月のG20で、日本の「プラスチック資源循環戦略」をアピール
- **プラスチック・スマート**  
…“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、国内外に発信

- 業界団体として小委員会に参加
- キャンペーンHPにて「トレーtoトレー」「ボトルtoトレー」の取組を掲載

### 経済産業省

- **クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス**  
…廃棄物の適正管理、プラスチック製品の3Rの取組など海洋プラスチック問題の解決に向けたイノベーションを推進する企業連合

- 技術部会 副部長会社としてアライアンスに参加

### 農林水産省

- **プラスチック資源循環アクション宣言**  
…食品産業の業界団体・企業から、自主的取り組みを募集

- 農林水産省HPにて「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組を掲載

### 日本経済団体連合会

- **SDGsに資するプラスチック関連取組事例集**  
…プラスチックの資源循環をより一層推進するとともに海洋プラスチックごみ問題に貢献する観点から、企業・団体による取組事例を収集

- 日本経済団体連合会HPにて「リサイクル」「リデュース」「啓発活動」の取組を掲載

### イニシアティブ

- **気候変動イニシアティブ** (Japan Climate Initiative)  
…脱炭素化をめざす世界の最前線に日本から参加することを宣言し、気候変動対策に積極的に取り組む団体のネットワーク

- 設立時より参加表明

# 【施設見学のご案内】

随時受付：経営企画室 03-5325-7756

最新鋭の 生産～物流～リサイクル をご覧いただけます。

## 関東 JR東日本 古河駅～30分



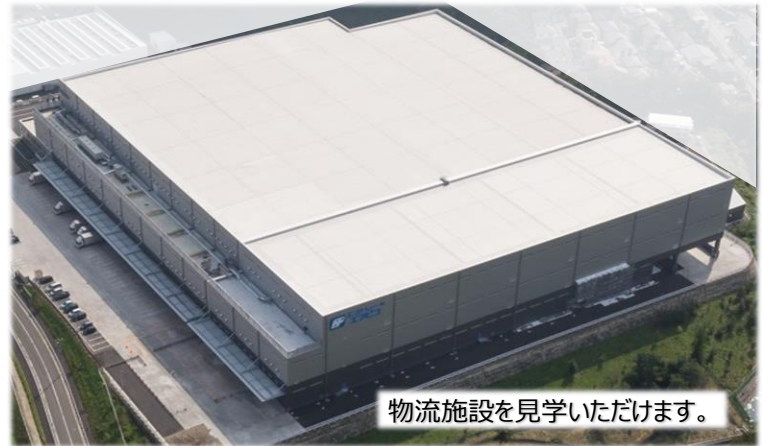
### OPET生産設備



関東エコPET工場  
2017年8月完成



## 八王子 JR東日本 秋川駅～20分



## 福山 JR西日本 福山駅～30分



PETメカリサイクルプラント×2

## 中部 JR東海 岐阜羽島駅～20分

